



**三和油化工業株式会社**

東証スタンダード市場／名証メイン市場

証券コード：4125

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月11日

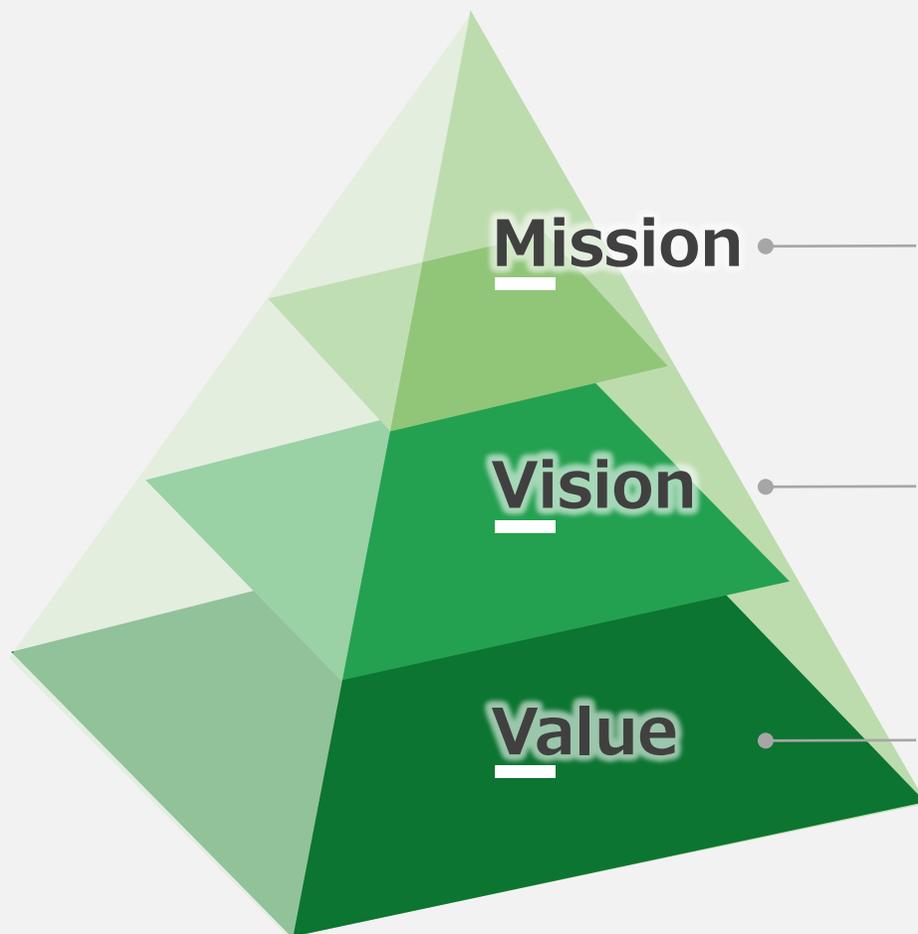


1. 会社概要	P. 3
2. 2023年3月期 第2四半期 決算概要	P.13
3. 2023年3月期 業績予想	P.25
4. トピックス	P.33
5. Appendix	P.38



# 会社概要





我々は何のために存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに事業活動を展開し、持続可能な社会の実現への貢献

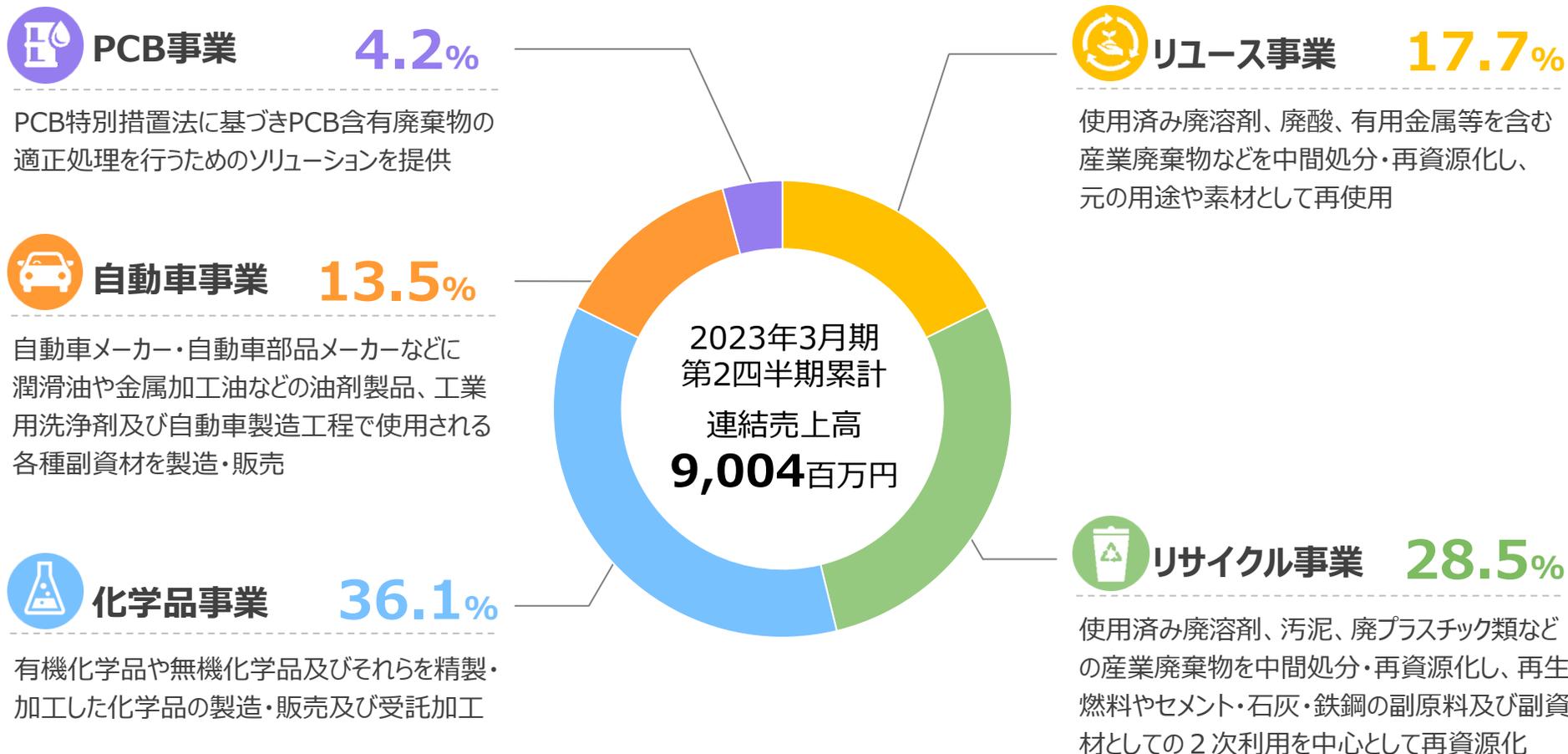
我々はどこに行こうとしているのか

社会から必要とされる環境リーディングカンパニーを目指す

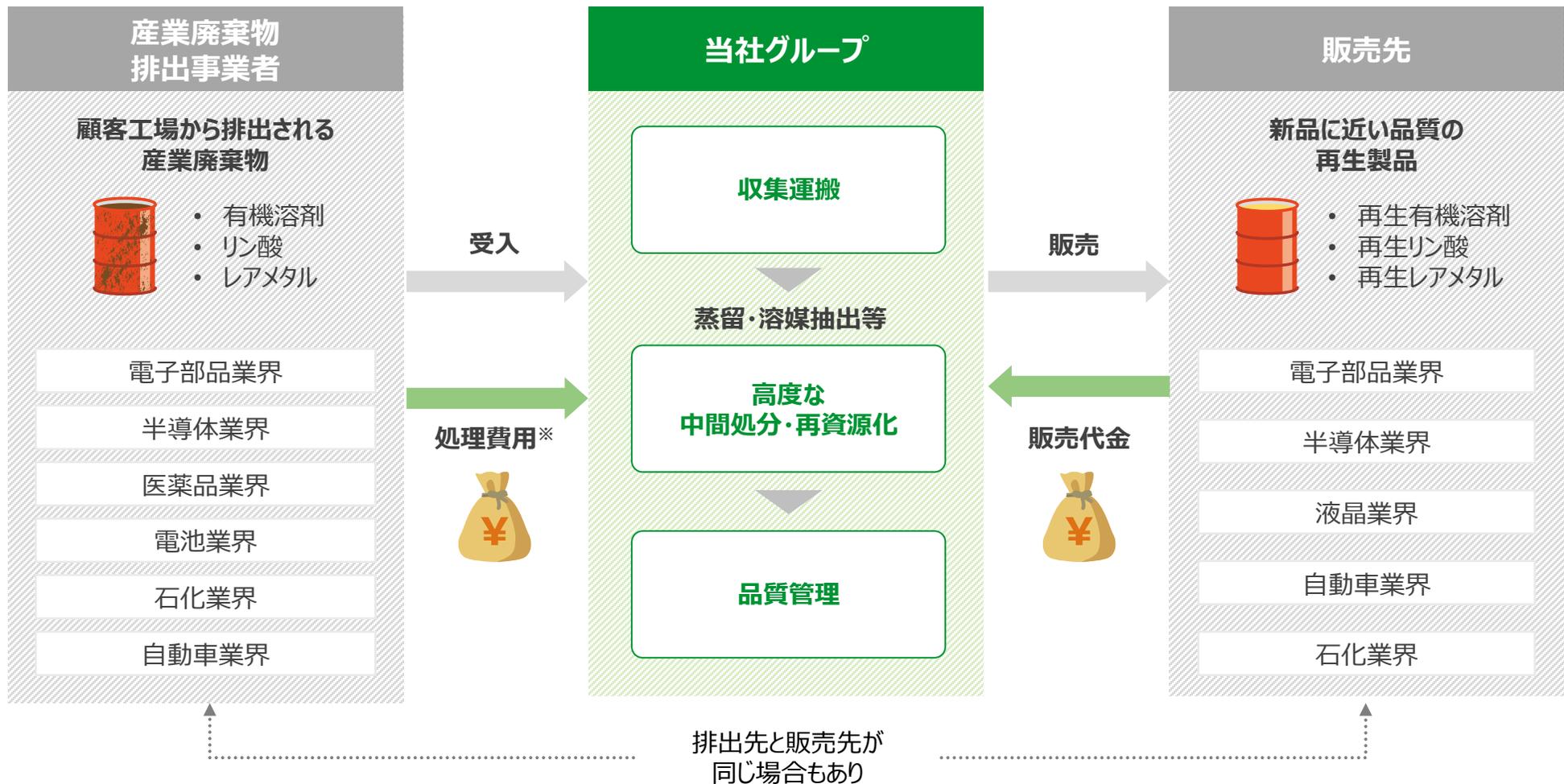
我々は何を大切にしているのか

社会からより信頼されるよう、「責任」・「挑戦」・「創造」を根幹に、与えられた役割を常に考え、「誠実に、確実に」やり遂げる

## ■ リユース・リサイクル・化学品の3つが当社の主力事業



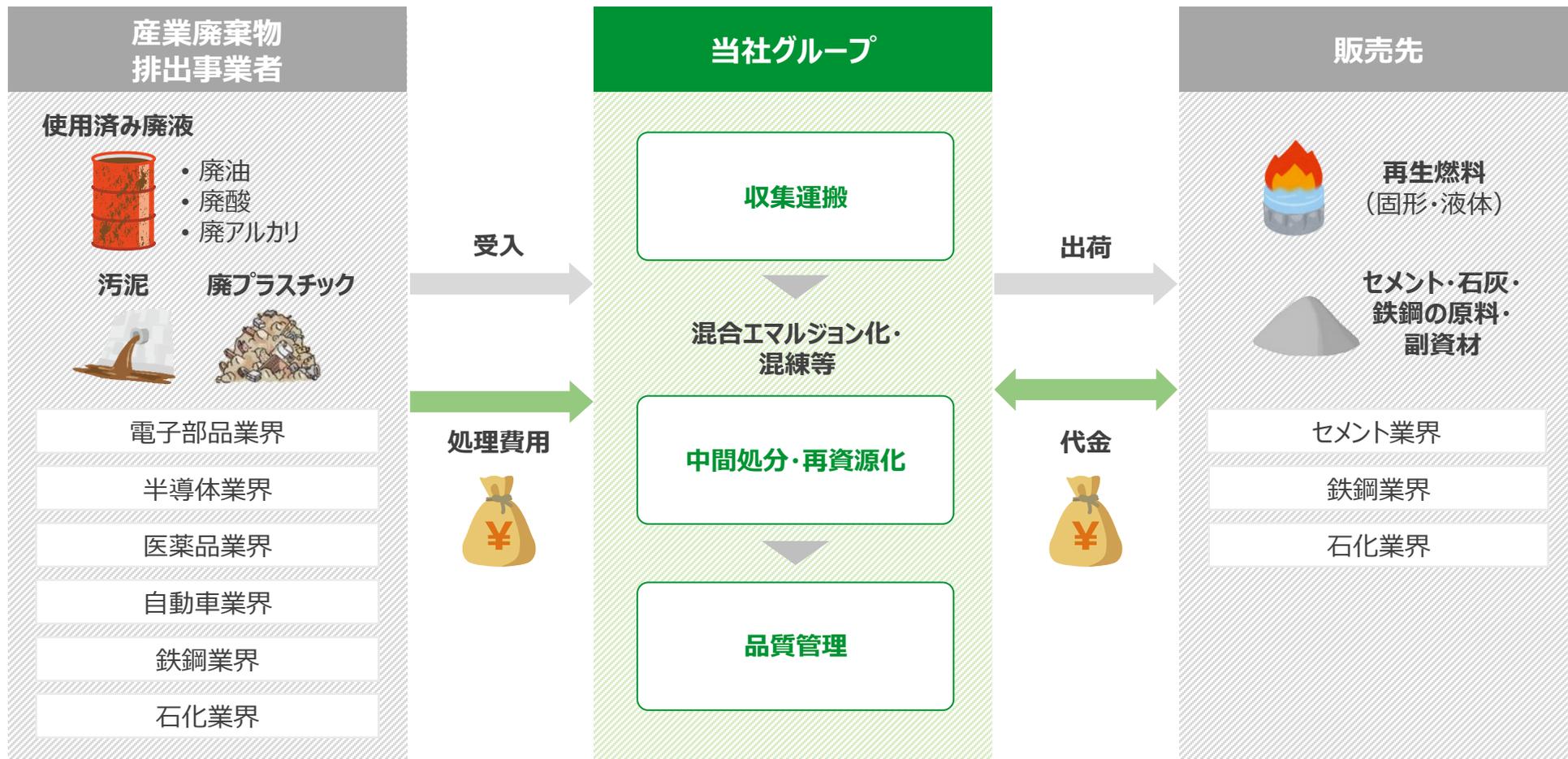
- 回収した廃棄物を**新品に近い品質の再生製品にリサイクル**して資源の国内循環を促進
- 二次産業全般にわたる**多種多様な業界との取引**により、安定的な収益基盤を構築



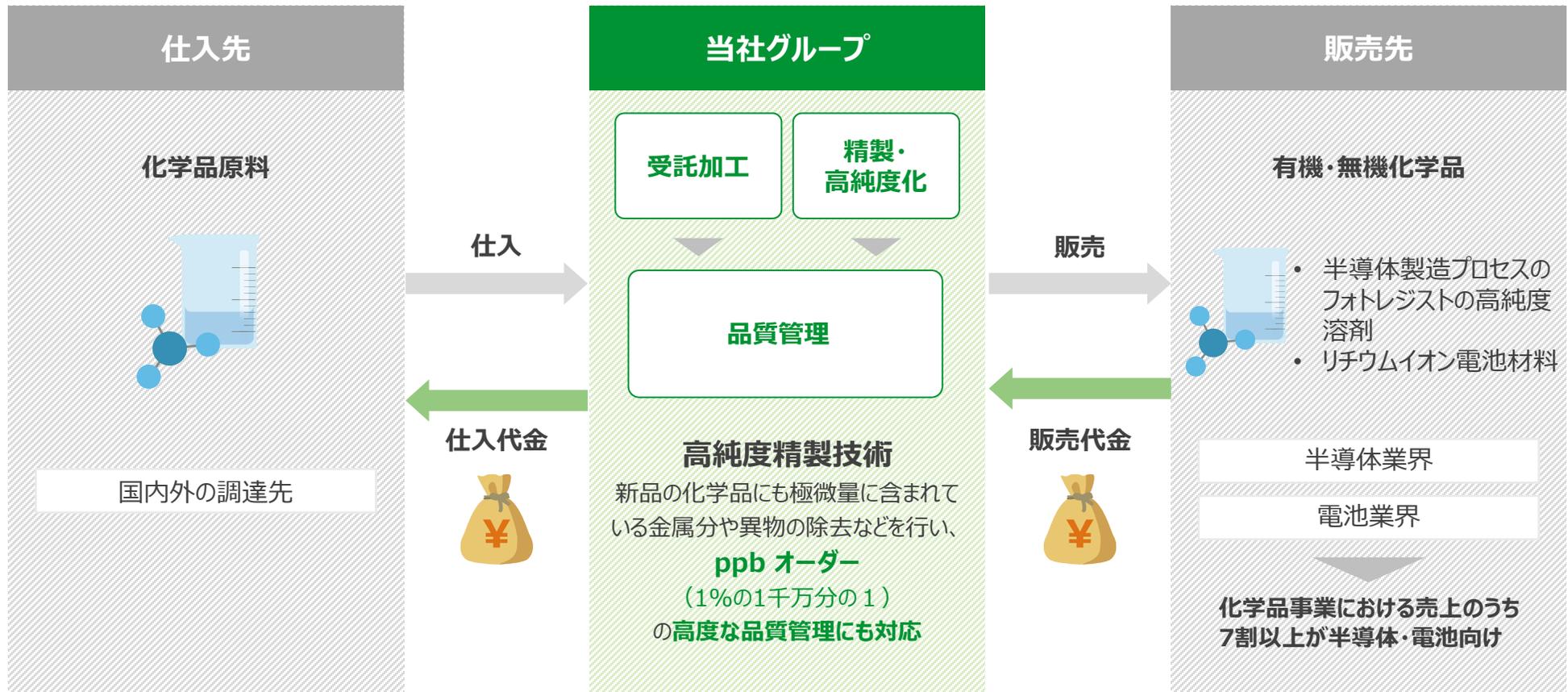
※有価物として当社グループが買取する場合もあり



- 素材として再資源化できない産業廃棄物を**再生燃料など別用途へ再資源化**
- **脱炭素**が求められる業界からの需要が高まっている

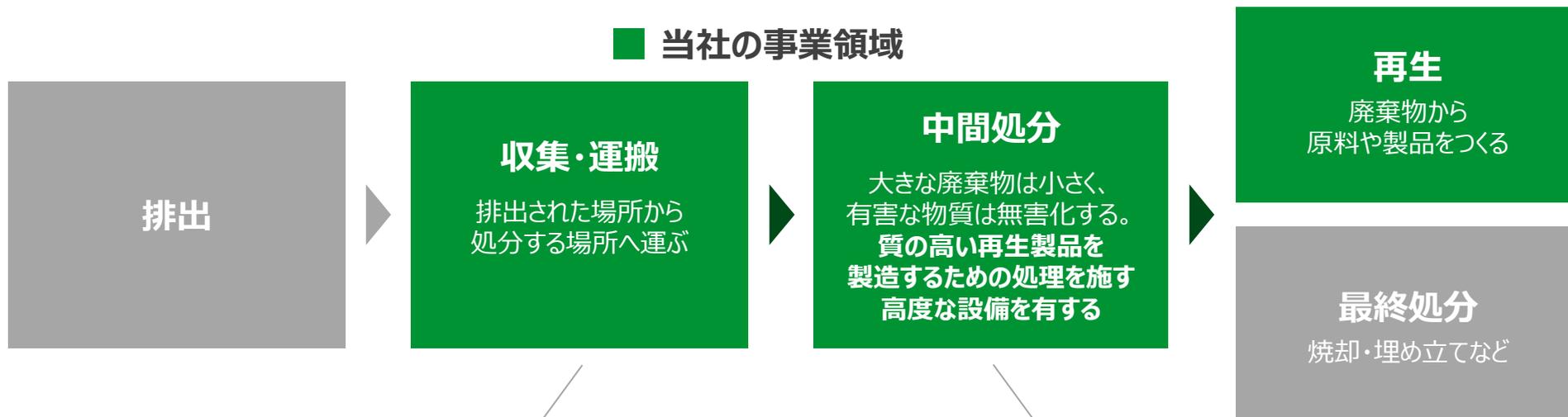


- 高度な分離・精製技術、分析技術を活用し、**品質要求が高い電子部品・半導体・電池メーカー**が使用する高品質な**有機・無機化学品**を製造



- 産業廃棄物処理は都道府県ごとの許可が必要であり、許可を取得することで事業の幅を広げることができる業界

## ■ 当社の事業領域



### 収集運搬業許可

積み込み、荷降ろしを行う両自治体での許可が必要

許可が必要！

A県  
積み込み場所



B県  
通過

C県  
荷降ろし場所



許可が必要！

### 中間処分業許可

事業所周辺の住民の同意の取得を要件とする自治体があり、様々な環境規制への対応も必要

※自治体による違いあり

参入障壁

処分業の許可取得はハードルが高い！



許可が必要！



事業所



- 幅広い地域で収集運搬許可を保有するため、全国での廃棄物の収集運搬が可能
- 自社保有の車両と提携先との連携で、全国を網羅する物流ネットワークを構築

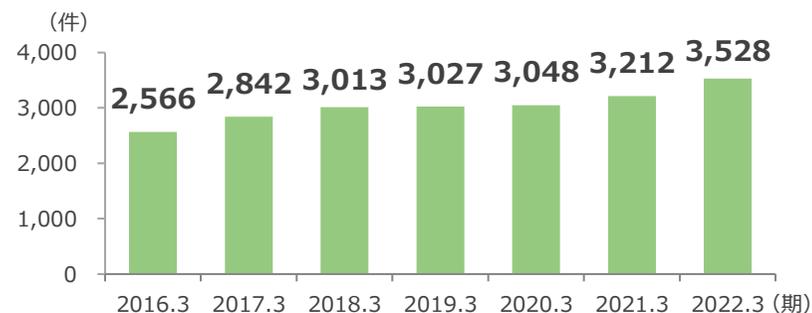
全国で

**100**台超の運搬車両

**40**社強の提携先 を保有



## 取引先数の推移



## 保有許可

幅広い地域で収集運搬の許可を保有

許可項目	
産業廃棄物収集運搬業	43都道府県
特別管理産業廃棄物収集運搬業	47都道府県
一般貨物自動車運送事業	中部陸運局 関東運輸局
倉庫業	中部陸運局
毒劇物一般販売業	愛知県
計量証明業	愛知県



- 蒸留や溶媒抽出等の化学的手法による分離技術をはじめ、輸入依存度が高い資源を国内で循環させる技術・特許を多数保有し、高度なマテリアルリサイクルを実現



## 有機溶剤廃液 リサイクル技術

**15種類**  
大型蒸留ラインを保有

- 20年以上にわたり、**充実した技術と豊富なノウハウ**を蓄積
- **様々な業種とのネットワーク**を活かし、再生製品を排出先に戻すだけでなく、別の業種の顧客に販売することも可能

### 再生溶剤の主な用途



塗料の  
希釈溶剤



各種製品の製造工程で  
使用される洗浄剤



## 混酸の分離回収

**リン酸**  
リン酸のみを抽出分離する  
技術を確立

- 混酸廃液からリン酸のみの抽出分離を事業化しているのは**国内で当社のみ**
- **液晶・半導体工場の製造工程で多用**され、今後、旺盛な需要が見込まれる

### 再生リン酸の主な用途



肥料



電子部品の  
防錆剤



## 貴金属・レアメタルの 回収

**希少金属**

今後の需要増が見込まれる  
金属の回収

- 様々な金属を**固体/液体**から回収
- **低品位な廃棄物**から金属資源を濃縮回収
- **工程発生物（廃液・廃材）も有効利用**でき、コストダウンが可能

### 再生金属の主な用途



パソコン・  
スマートフォン

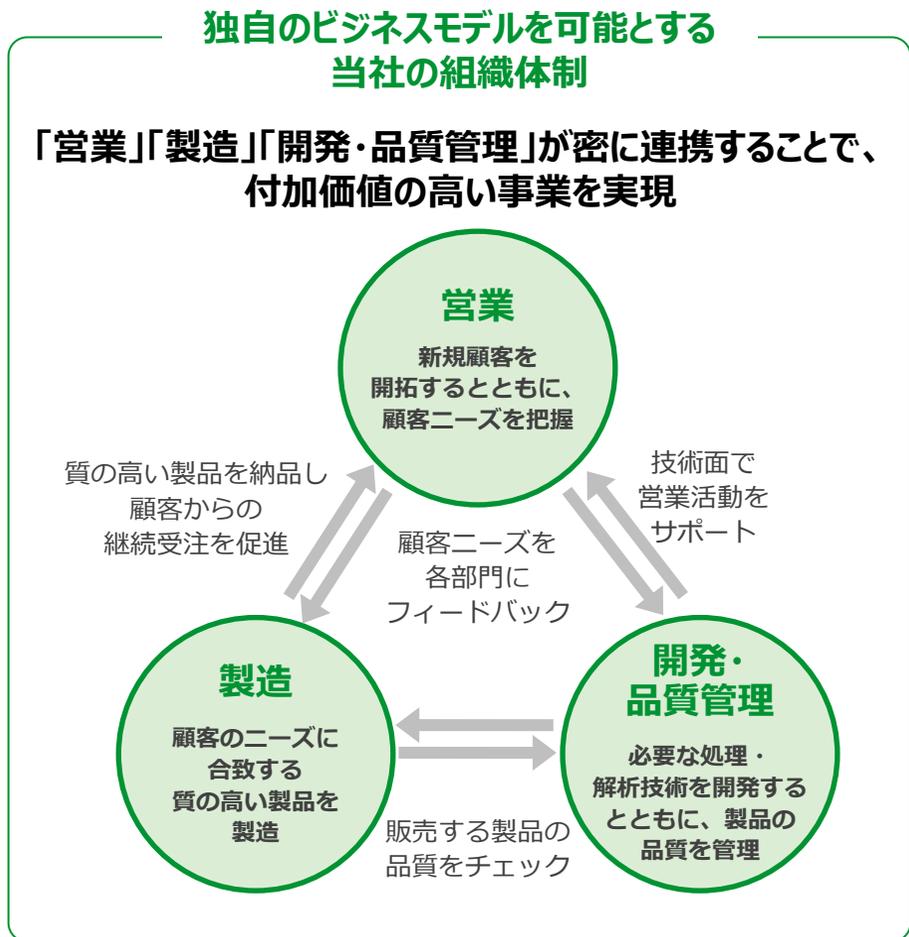
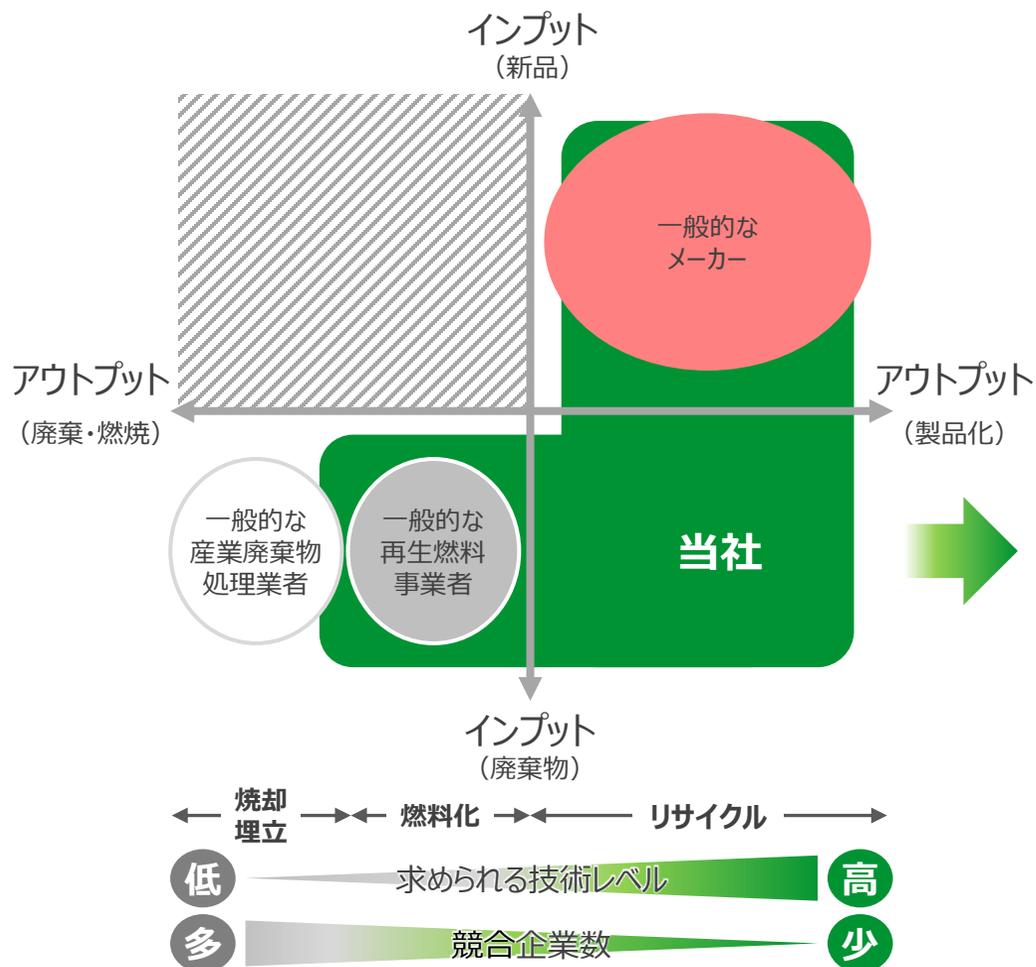


リチウムイオン  
電池



次世代自動車

- 産業廃棄物をリサイクルする会社であり、メーカーとしての側面も併せ持つ
- 高い処理技術と品質管理体制、幅広い対応力が特徴
- リサイクル業者と一般的なメーカーの分類





# 2023年3月期 第2四半期 決算概要



## 2023年3月期 第2四半期累計

売上高	営業利益	営業利益率
<b>9,004</b> 百万円 【前年同期比】 + <b>24.3%</b> 	<b>993</b> 百万円 【前年同期比】 + <b>14.8%</b> 	<b>11.0%</b> 【前年同期比】 $\Delta$ <b>1.0PT</b> 

### 事業環境

- コロナ禍から経済正常化へ向かう一方、中国ロックダウンや半導体不足による生産活動へのマイナス影響
- ウクライナ・ロシア情勢等の地政学リスクや為替影響により、原材料・エネルギーコストは上昇

### 内部対応

- 産業廃棄物の有効利用や電子材料向け製品の供給に注力
- 東西工場拠点における新設リサイクル施設を稼働させるための営業活動・顧客開拓

⇒ **第2四半期累計の業績は堅調に推移しており、進捗率は良好**

※2022年3月期 2Q累計の数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

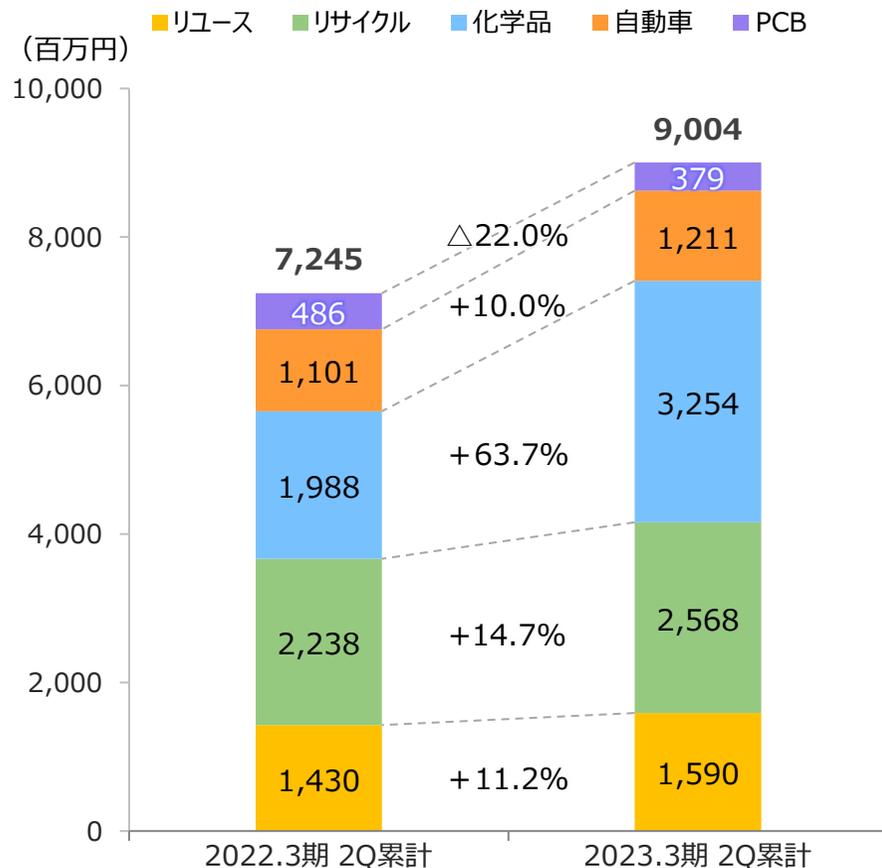
- 第2四半期累計の売上高・各段階利益は、いずれも過去最高の業績
- 原材料価格の高騰と化学品事業の伸長によるセールスマックス変化により、粗利率は低下

	2022年3月期 2Q累計		2023年3月期 2Q累計								
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	前年同期比 増減額	前年同期比	予想	売上高比率	予想比 増減額	予想比	
(単位：百万円)											
売上高	7,245	100.0%	<b>9,004</b>	100.0%	+1,759	+24.3%	8,300	100.0%	+704	+8.5%	
売上総利益	2,265	31.3%	<b>2,488</b>	27.6%	+223	+9.9%					
営業利益	866	12.0%	<b>993</b>	11.0%	+127	+14.8%	880	10.6%	+113	+12.8%	
経常利益	876	12.1%	<b>1,015</b>	11.3%	+139	+15.9%	880	10.6%	+135	+15.3%	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	566	7.8%	<b>651</b>	7.2%	+85	+15.1%	610	7.3%	+41	+6.7%	

※2022年3月期 2Q累計の数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

## ■ PCB事業を除き、4事業で売上高が前年同期比増

### 事業種別売上高



※2022.3期 2Q累計の数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

### 事業種別概況



#### リユース事業

- ・数量は前年同期比減少（前期は大型スポット案件あり）
- ・資源価格の上昇に伴い、再生製品の販売価格は上昇



#### リサイクル事業

- ・茨城事業所が稼働を開始し、東西拠点で取扱数量増加
- ・廃棄物の引取価格、再生燃料の販売価格ともに上昇



#### 化学品事業

- ・半導体・電池向け製品の需要は堅調
- ・市況価格の上昇は一段落、一部の有機溶剤価格が下落



#### 自動車事業

- ・中国ロックダウンの影響で顧客工場の稼働は不安定
- ・数量は伸び悩むも、顧客工場での新たなニーズへ対応

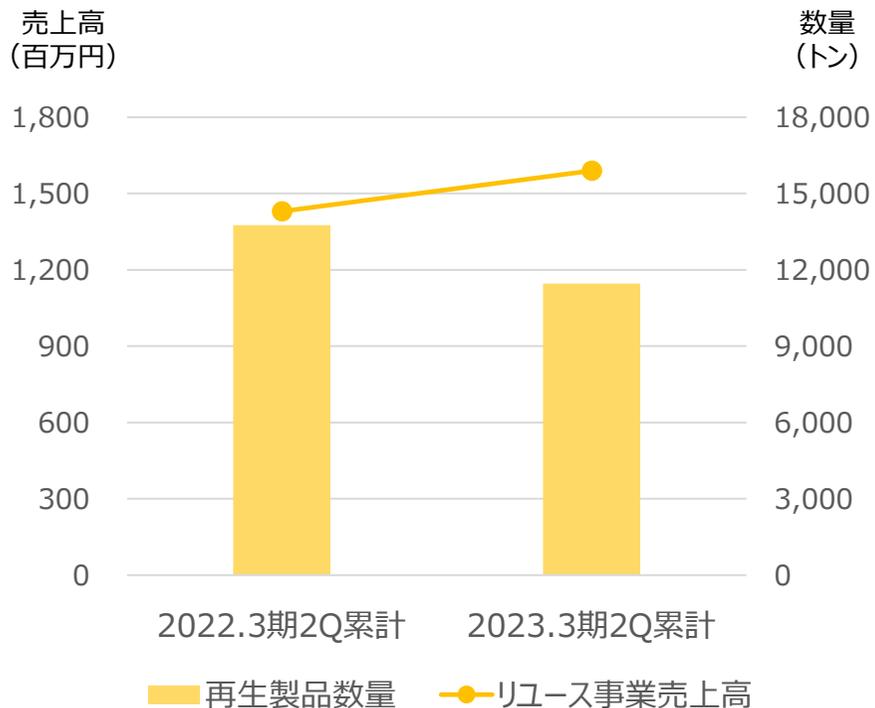


#### PCB事業

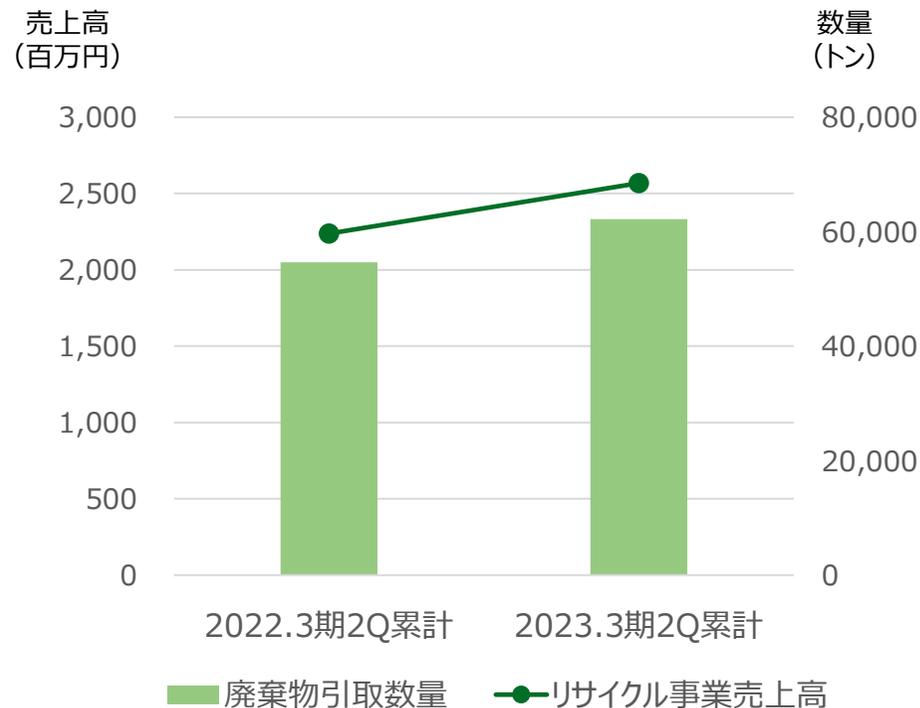
- ・1Qでの期ズレ案件を回収し、概ね堅調に推移（減収は想定内）
- ・他の事業での取引展開に注力



## リユース事業



## リサイクル事業



### ■ リユース事業売上と再生製品販売数量

- 大型スポット案件影響を除くと、数量は概ね横ばい
- 資源価格の上昇に伴い、**再生製品の売価UPが売上増に寄与**

### ■ リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 東西拠点を中心とした**廃棄物引取数量増が売上増に寄与**
- 廃棄物の引取価格、再生燃料の販売価格は僅かに上昇

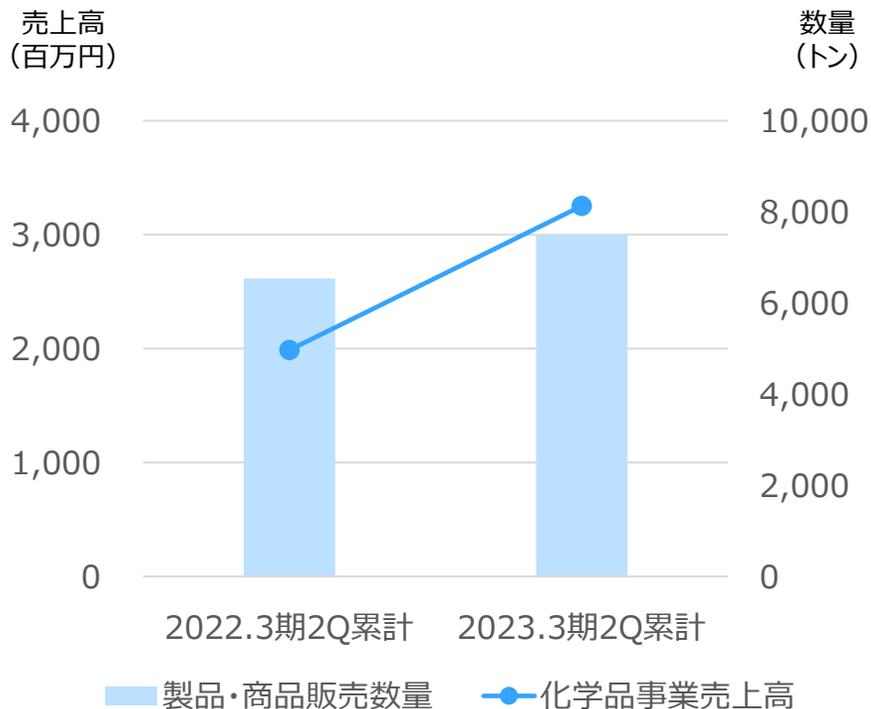
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



※製品・・・当社グループが品質保証する製造品 商品・・・転売品



## 化学品事業

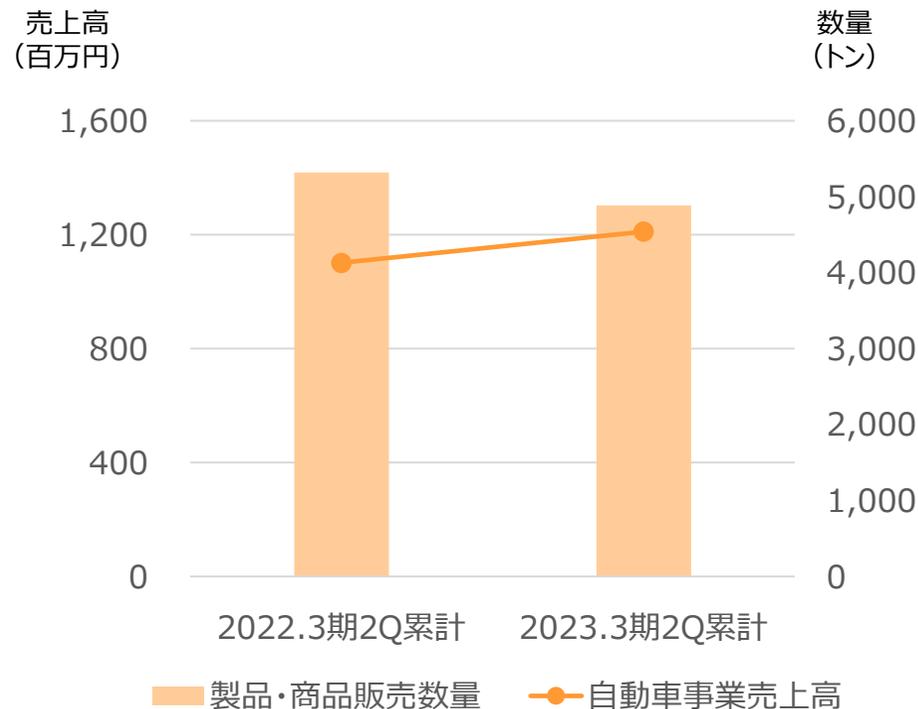


### ■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 半導体・電池向け**販売数量増と売価UPの両面で売上増**
- 2Qから、主要品目の一部では価格低下も見られる



## 自動車事業



### ■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

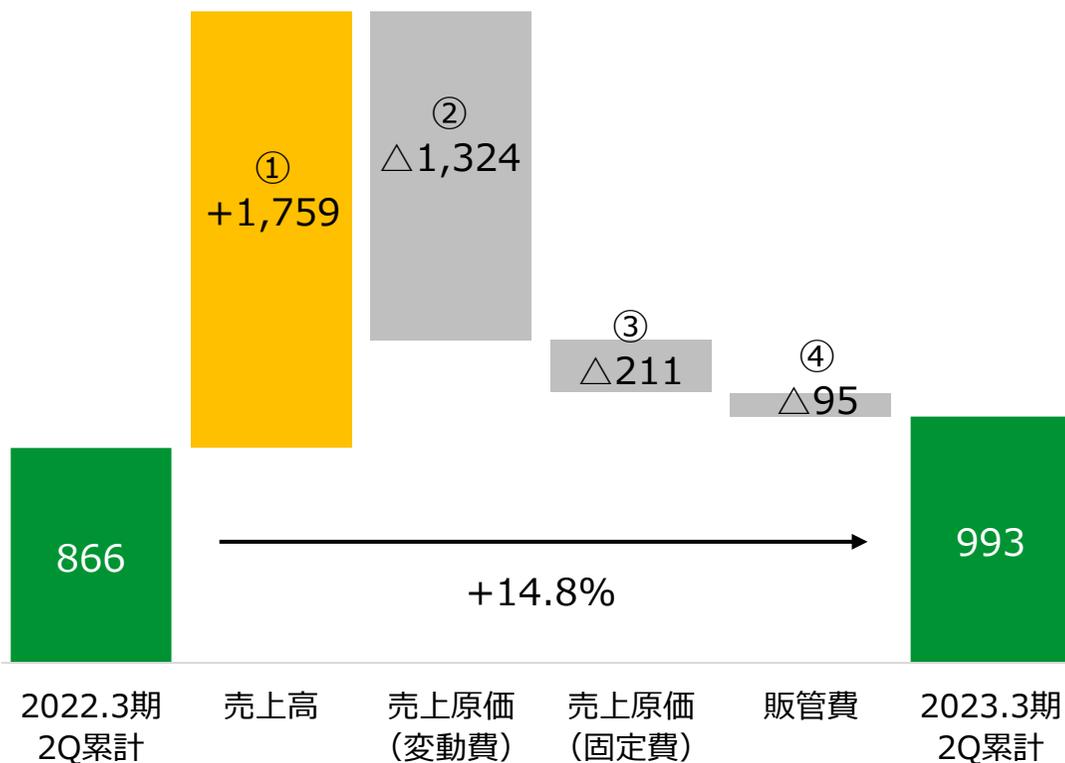
- 不安定な顧客稼働により販売数量は減少
- **売価UPと顧客設備等の解体・撤去・清掃作業で売上増**

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

# 営業利益増減要因分析（前年同期比）

- 半導体・電池向けの製品需要が大きく増加、販売価格は全体的に上昇
- リユース・リサイクル事業（固定費型）よりも化学品事業（変動費型）が伸びたことで変動費率上昇

(百万円)



## ①売上高

- 化学品事業が伸長（半導体・電池）
- 販売価格は全体的に上昇（化学品の主要品目では2Qから下降兆候あり）

## ②売上原価（変動費）

- 原材料の数量増加、単価上昇
- アライアンス先への外注加工費増加
- 外部処理先への産廃処理費増加
- 運送コスト増加

## ③売上原価（固定費）

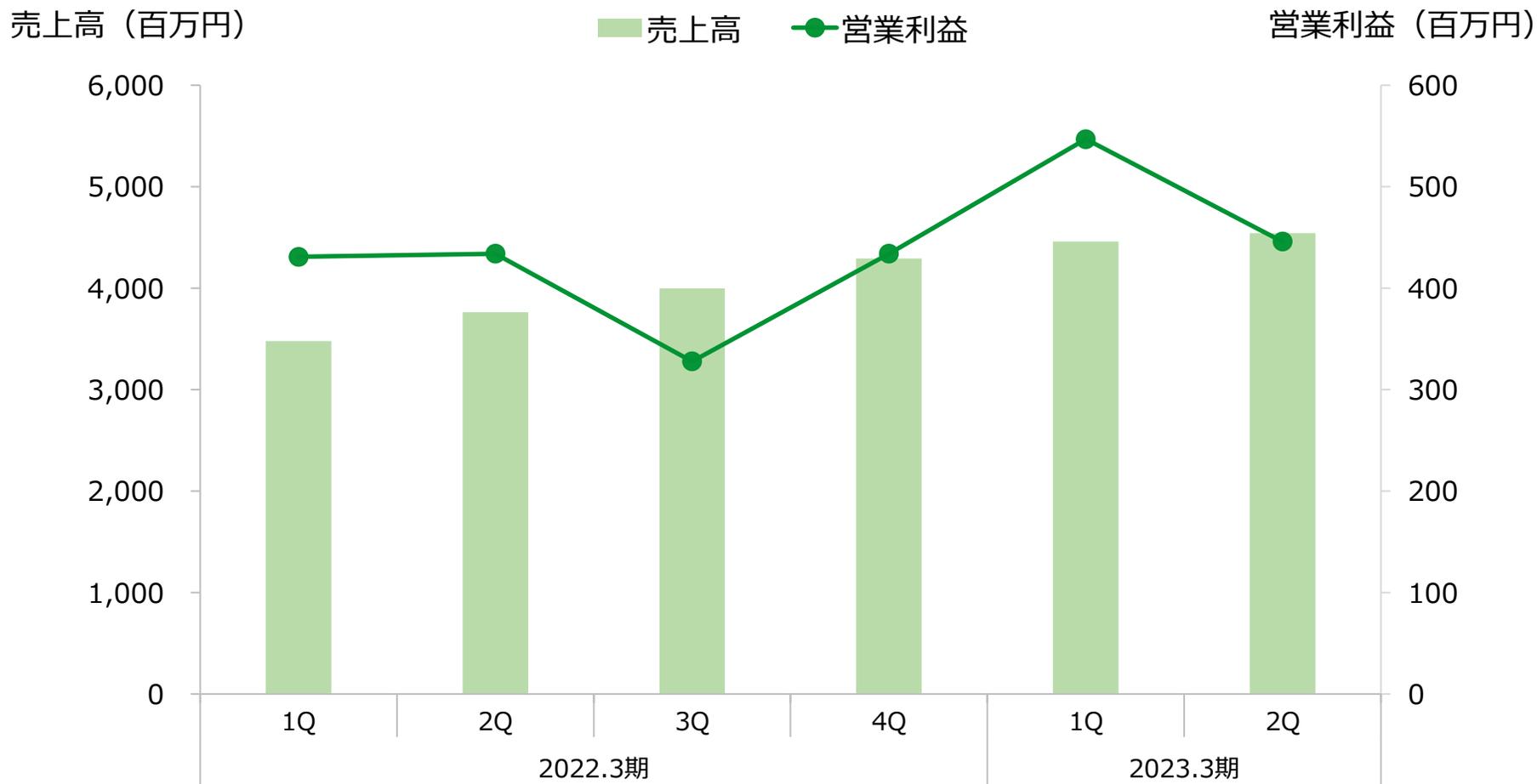
- 投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 保険料、工場設備の修繕費増加
- 人員増、ベースアップによる人件費増加
- ユーティリティー費（電気・ガス）増加

## ④販管費

- 人員増、ベースアップによる人件費増加
- 租税公課（外形標準課税）増加
- 株主総会関連費用

※2022.3期 2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

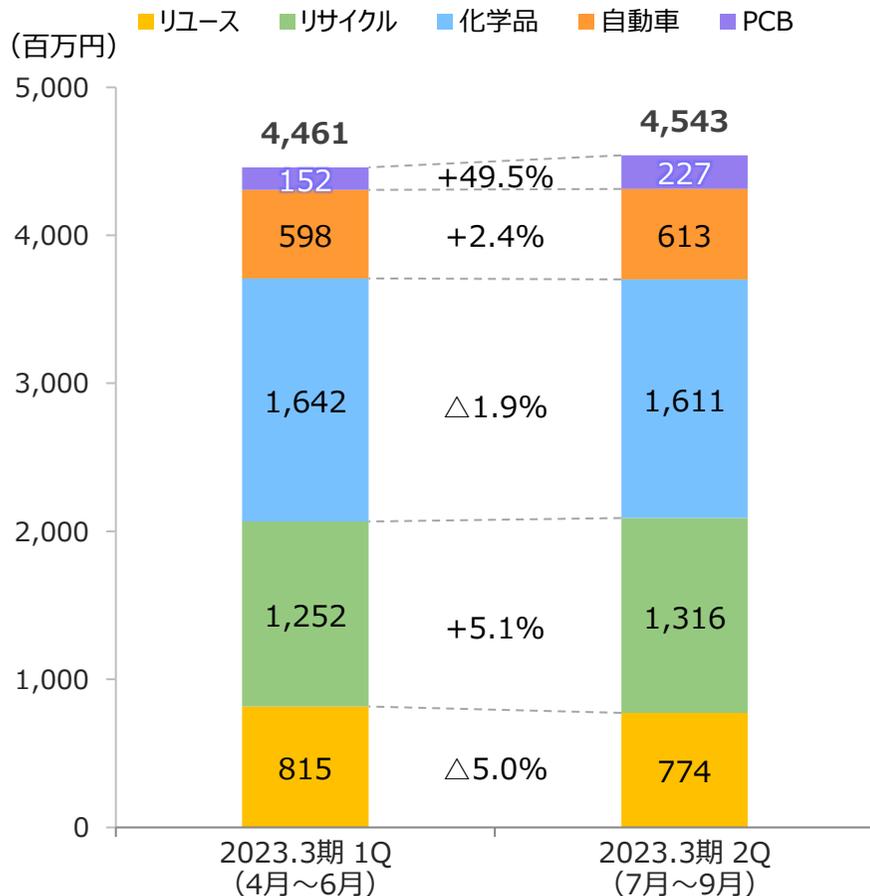
- 売上高は右肩上がりに増加
- 上場関連費用等の影響があった2022年3月期第3四半期以外は安定的に利益を確保



※2022.3期 1Q・2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

## ■ 売上成長を牽引してきた化学品事業で、数量増加・価格低下

### 事業種別売上高



### 事業種別概況



#### リユース事業

- 1Qに金属スポット案件
- 再生溶剤、再生リン酸については概ね横ばい



#### リサイクル事業

- 茨城、和歌山の東西拠点で取扱数量増加
- 中間処分後の品質管理で若干の課題を残した



#### 化学品事業

- 半導体・電池向け製品の数量は増加
- 主要品目の市況価格が下降、売価にも順次反映



#### 自動車事業

- 顧客工場の稼働は不安定な状況が継続
- 数量は伸び悩むも、売価への転嫁が徐々に進行

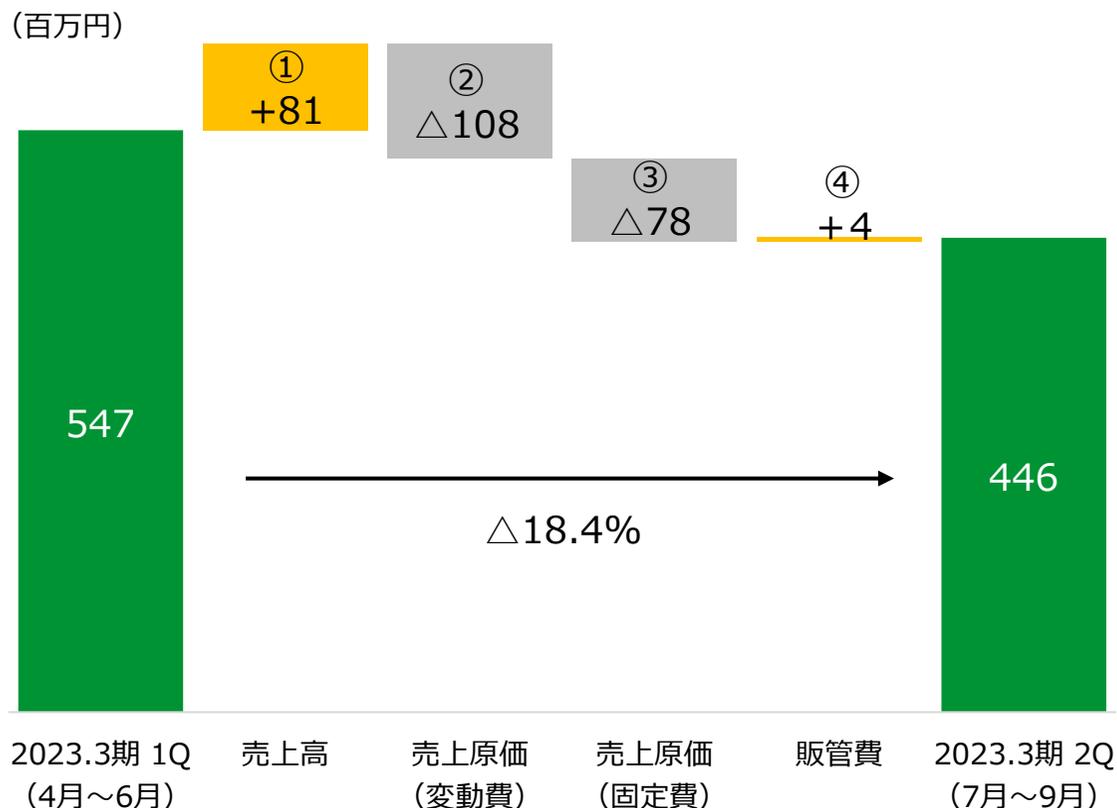


#### PCB事業

- 1Qでの期ズレ案件を回収し、概ね堅調に推移
- 他の事業での取引展開に注力

# 営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 化学品事業の主要原材料で市況価格が不安定であり、一部では売価とのギャップ発生
- 固定費の増加（修繕費の増加は計画どおり、業績好調による賞与引当の積み増し）



## ①売上高

- ・ 前ページのとおり
- （増収）リサイクル、自動車、PCB
- （減収）リユース、化学品

## ②売上原価（変動費）

- ・ 原材料の数量増加等
- ・ 外部処理先への産廃処理費増加
- ・ 運送コスト増加

## ③売上原価（固定費）

- ・ 下期賞与の引き当てを積み増し
- ・ 新入社員配属で人件費科目変更（販→製）
- ・ 修繕費の増加

## ④販管費

- ・ 下期賞与の引き当てを積み増し
- ・ 新入社員配属で人件費科目変更（販→製）

# 貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2022年3月期末	2023年3月期 2Q末	前期末比 増減額	コメント
流動資産	8,177	<b>7,456</b>	△720	茨城設備の支払で現預金が減少
固定資産	13,205	<b>13,305</b>	+100	SNR設備が建設仮勘定として増加
資産合計	21,382	<b>20,761</b>	△620	—
流動負債	6,482	<b>5,390</b>	△1,092	短期借入金の返済、設備投資の未払減少
固定負債	5,130	<b>5,142</b>	+11	—
負債合計	11,613	<b>10,532</b>	△1,080	—
純資産合計	9,769	<b>10,228</b>	+459	配当金の支払、純利益獲得
負債・純資産合計	21,382	<b>20,761</b>	△620	—

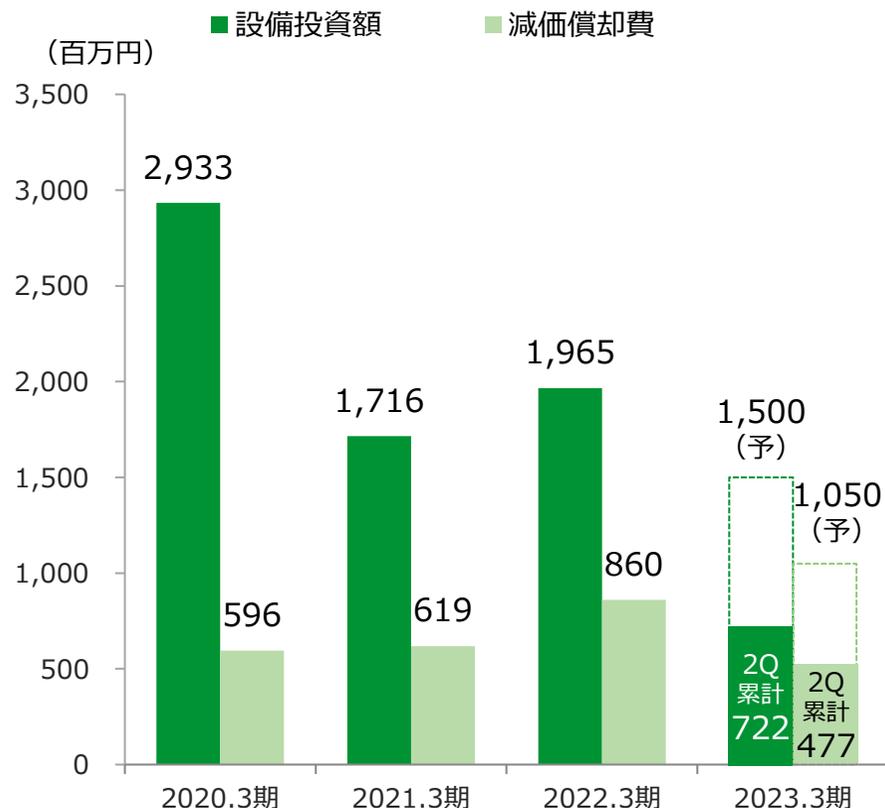
※ SNR = サンワ南海リサイクル株式会社

(単位：百万円)	2022年3月期 2Q累計	2023年3月期 2Q累計	前年同期比 増減額	コメント
営業キャッシュ・フロー	597	<b>1,025</b>	+427	法人税等の支払、純利益・減価償却費の増加
投資キャッシュ・フロー	△1,160	△ <b>1,483</b>	△322	有形固定資産取得による支出増加
財務キャッシュ・フロー	△44	△ <b>338</b>	△294	短期借入金の純減額による支出増加
現金及び現金同等物の増減額	△608	△ <b>796</b>	△188	
現金及び現金同等物の期末残高	891	<b>2,422</b>	+1,531	

- 下期に稼働開始予定の SNR 2期工事を中心に設備投資を進め、大型案件は概ね計画どおり進捗
- 運搬車両や計装機器等の調達難により、一部では納期遅れの傾向もみられる

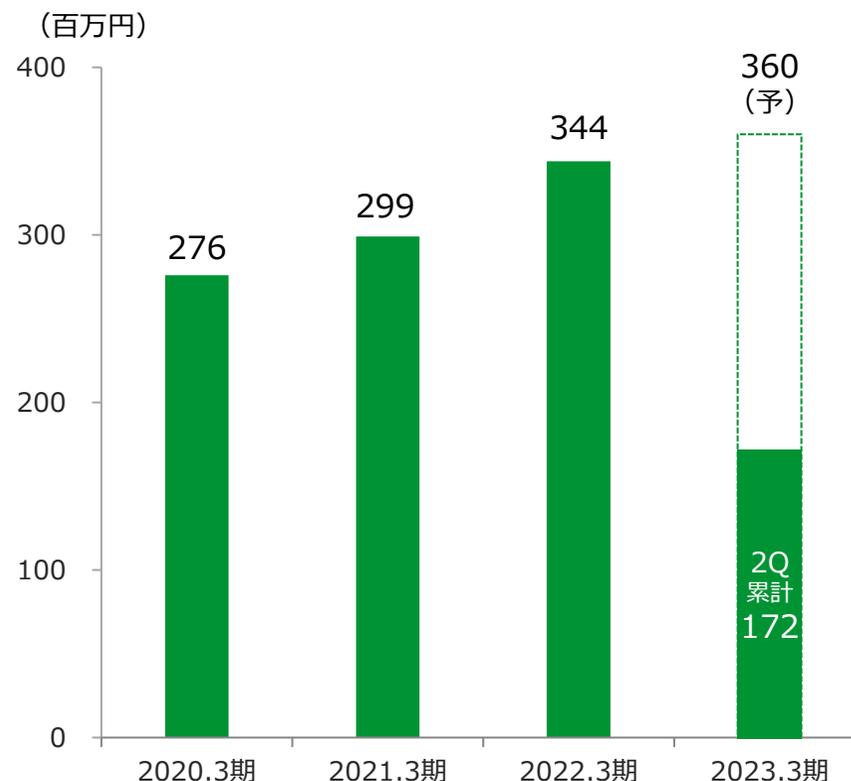
※ SNR = サンワ南海リサイクル株式会社

## 設備投資額・減価償却費



※減価償却費にはリース資産を含む

## 研究開発費





# 2023年3月期 業績予想



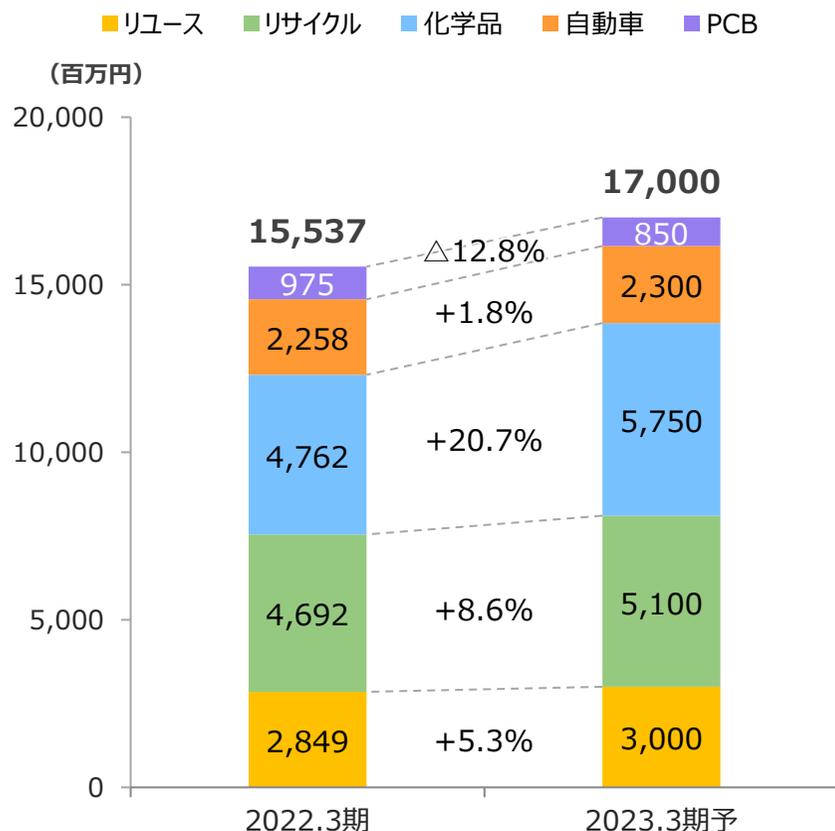
- リユース・リサイクル・化学品を中心とした成長を目指し、9.4%増収、10.5%営業利益増益を予想
- **2Q累計は堅調に推移しており、進捗率は良好**

(単位：百万円)	2022年3月期		2023年3月期 予想		増減		2023年3月期 2Q累計	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	増減比	実績	進捗率
売上高	15,537	100.0%	<b>17,000</b>	100.0%	+1,462	+9.4%	<b>9,004</b>	53.0%
売上総利益	4,603	29.6%	<b>4,800</b>	28.2%	+196	+4.3%	<b>2,488</b>	51.8%
営業利益	1,629	10.5%	<b>1,800</b>	10.6%	+170	+10.5%	<b>993</b>	55.2%
経常利益	1,629	10.5%	<b>1,800</b>	10.6%	+170	+10.4%	<b>1,015</b>	56.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,259	8.1%	<b>1,250</b>	7.4%	△9	△0.7%	<b>651</b>	52.1%

※2022年3月期には、特別利益として受取保険金（229百万円）を含んでおります。

- リユース事業、リサイクル事業、化学品事業を成長ドライバーと位置付け、環境ニーズに対応していく

## 事業種別売上高予想



## 事業種別概況



### リユース事業

- リン酸原料の収集に注力、事業規模を持続的に拡大
- 資源価格高騰、ESG/SDGsを背景に再資源化ニーズは旺盛



### リサイクル事業

- 東西工場拠点のリサイクル設備が本格稼働
- 化石燃料の代替として廃棄物由来エネルギーを供給



### 化学品事業

- 半導体・電子材料業界の旺盛な需要
- 高純度化学品の販売と使用済み廃棄物の再資源化



### 自動車事業

- 従来からの部品加工分野は需要が縮小していく見込み
- 顧客工場の改廃に伴う作業案件獲得に注力

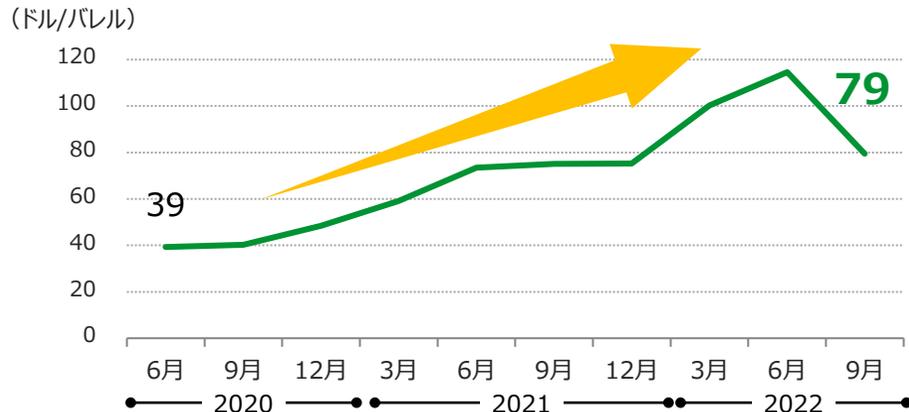


### PCB事業

- 2027年の処理期限に向けて徐々に縮小見込み
- PCB取引をきっかけに他事業での取引へ展開する活動に注力

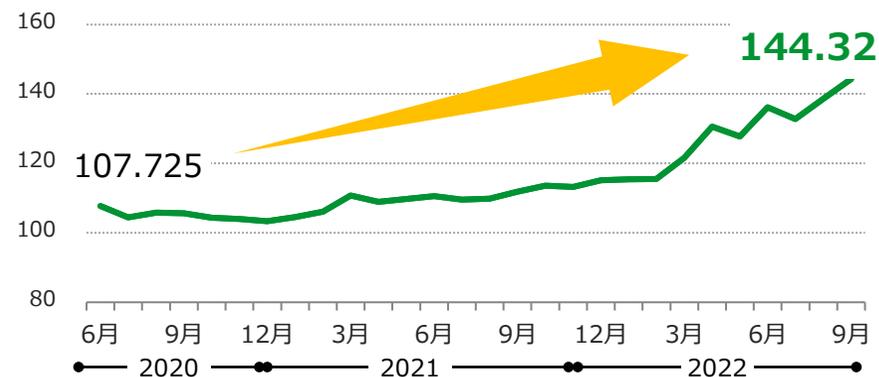
- 最近の資源価格高騰は著しく、国内でのリサイクル体制の早急な構築が望まれるなか、追い風の事業環境が続く

## 原油価格の推移 (WTI)



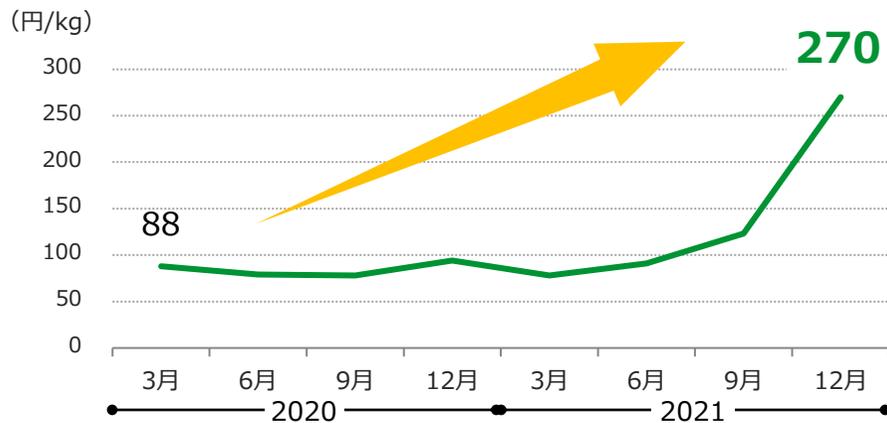
出典：World Bank, Organization of the Petroleum Exporting Countries

## 為替の推移 (ドル/円)



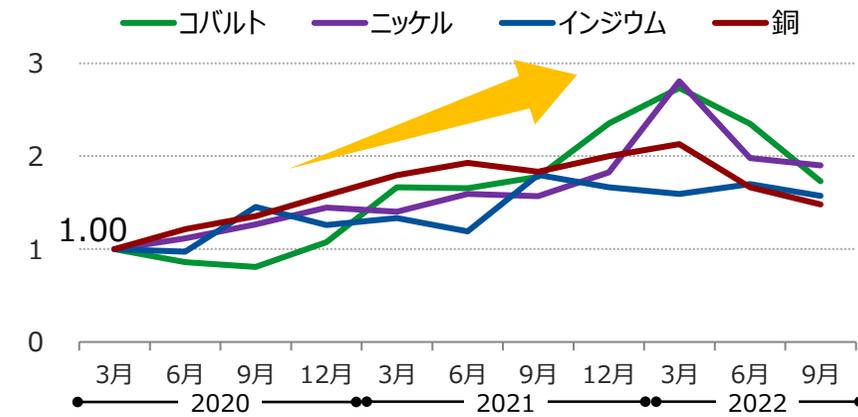
※東京・期末値

## リン酸及びポリリン酸 輸入CIF価格の推移



出典：財務省貿易統計

## 主なレアメタル 先物契約価格の推移 (2020年3月 = 1.00)

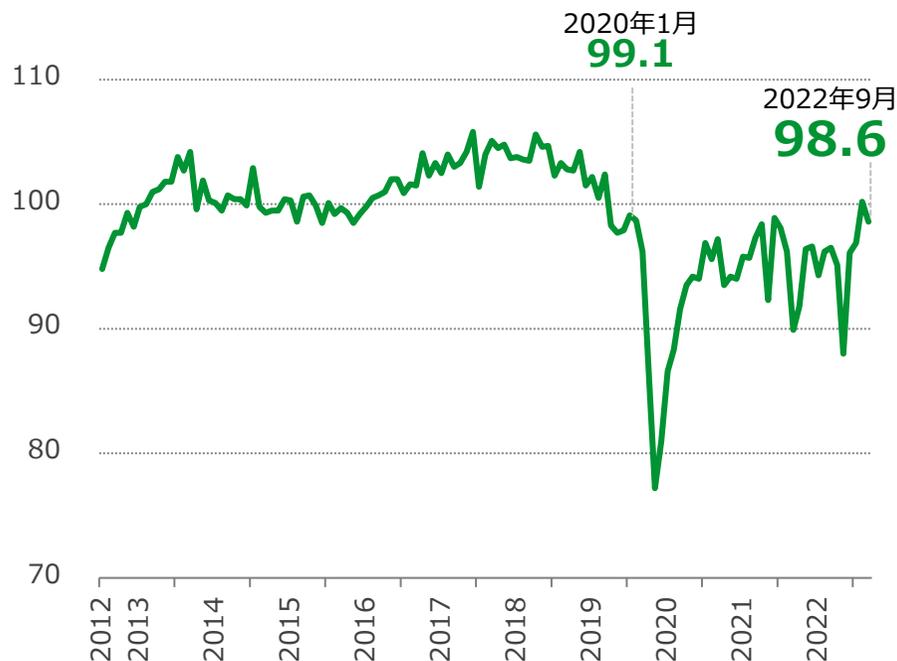


出典：Trading Economics ※2020年3月を1とした場合の数値

- 鋳工業生産指数がコロナ影響を除いてほぼ横ばいで推移する一方、産業廃棄物処理の価格指数は近年、大幅に上昇していることから、処分費売上の拡大に寄与

## 鋳工業生産指数 (季節調整済指数)

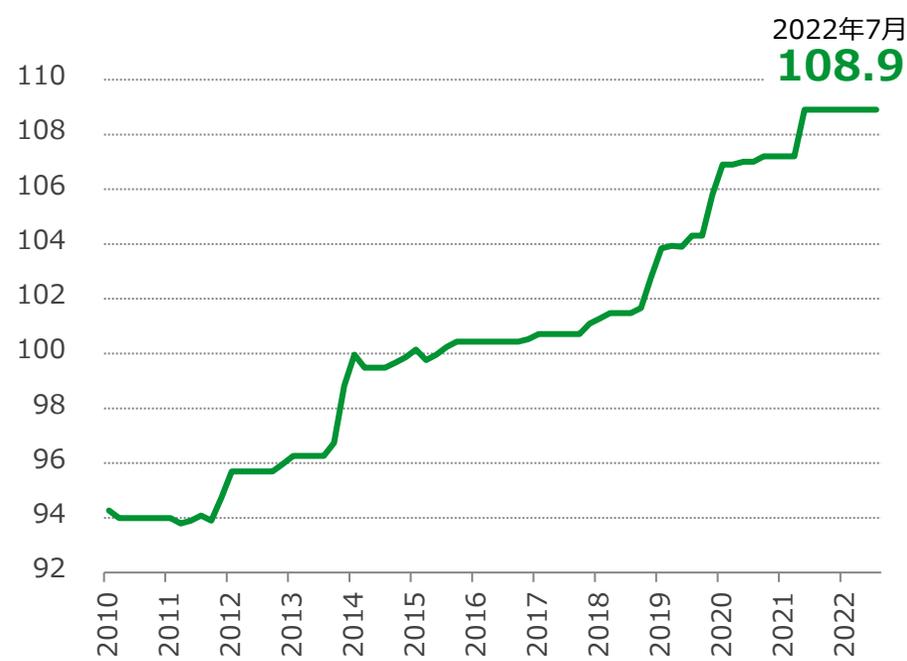
新型コロナウイルス感染症の影響で低下したものの、2020年6月以降は急速に回復



出典：経済産業省 鋳工業指数統計一覧 業種別季節調整済指数 (2022年3月時点)  
 ※2015年 = 100

## 産業廃棄物処理の価格指数

焼却費用の増加、最終処分費用の増加などに伴い、近年大幅に上昇している

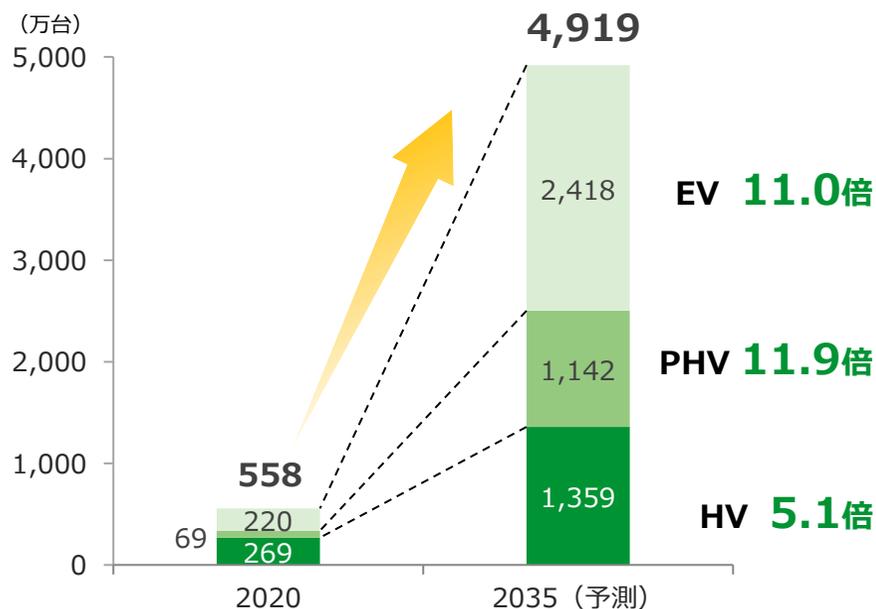


出典：日本銀行「企業向けサービス価格指数」(2021年7月末時点)  
 ※2015年 = 100

- HV・PHV・EVの普及、5Gの普及で今後飛躍的な市場の拡大が見込まれる
- 半導体・電池等の需要増に伴い、事業環境は中長期的に追い風が続く
- 一過性でなく、中長期的なマーケット拡大が期待される

## HV・PHV・EVの世界市場 (乗用車・新車販売台数)

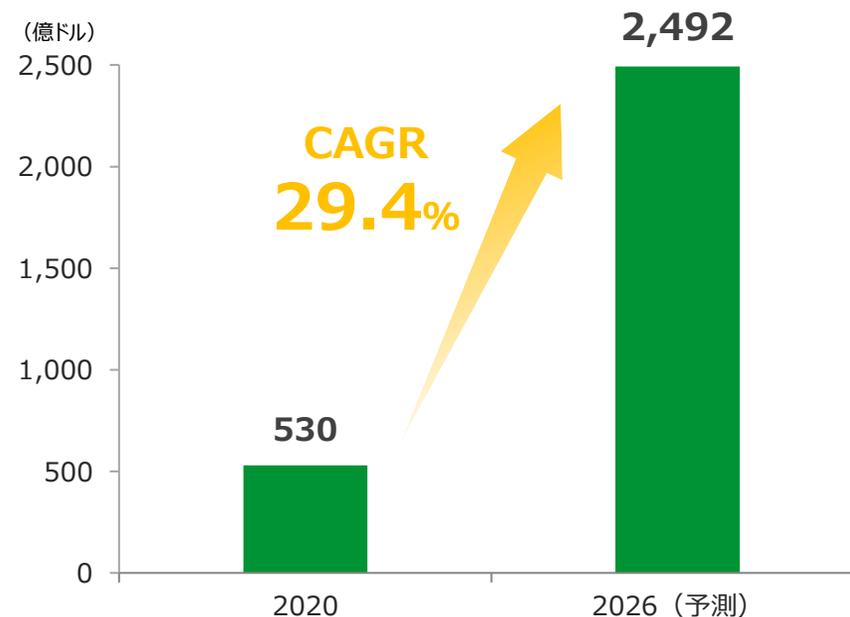
今後、電動車へのシフトが加速する見込みであり  
国内で採掘できない資源の需給ひっ迫が懸念される



出典：富士経済「HV・PHV・EVの世界市場を調査（2021年7月9日）」

## 5Gサービスの世界市場 (~2026年)

仮想化の急速な進展、接続を必要とする  
アプリケーションの増加などで成長が推進する見通し

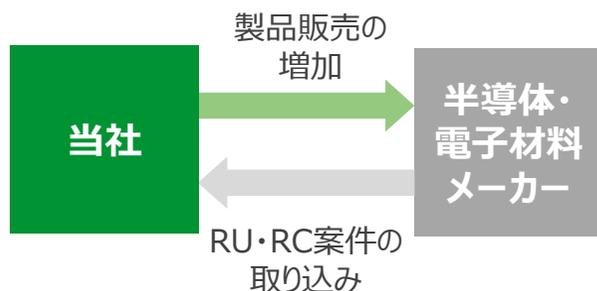


出典：株式会社グローバルインフォメーション（2021年4月19日プレスリリース）

## ■ 成長市場の環境ニーズを捉え、顧客数や付加価値の拡大を図る

### 1 半導体・電子材料関連

高純度精製技術、分析技術を活かして半導体・電子材料の高純度副資材を製造



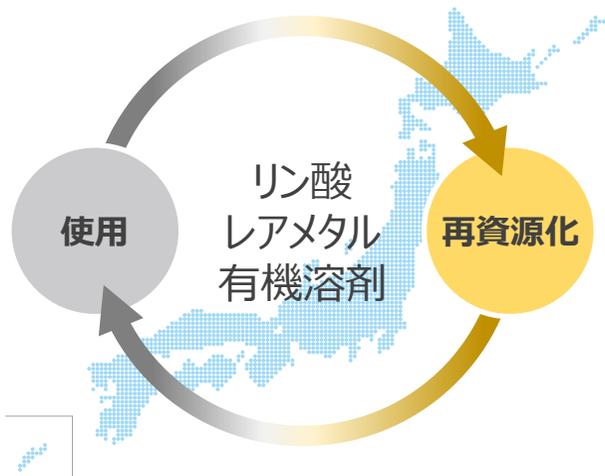
#### 主な取り組み

高沸・高純度設備などの新規設備投資

品質管理体制の強化

### 2 希少資源のリサイクル

調達難(枯渇、地政学)となった資源の国内で循環させる体制を強化



#### 主な取り組み

リン酸出荷設備への投資

省エネルギーサイクル技術の開発

多目的金属設備の収益化

### 3 代替エネルギー

化石燃料の代替となる廃棄物由来エネルギーの提供体制を強化



#### 主な取り組み

東西のリサイクル設備の立上げ

新燃料開発(固体・液体)

船舶出荷の増強

- 国内3拠点を中心に顧客開拓やアライアンス体制を拡充し、収益力の強化を図る
- 産業廃棄物の収集・処理能力の向上と合わせて、輸送コストの削減・輸送時のCO<sub>2</sub>排出量の削減を狙う

処理能力の向上

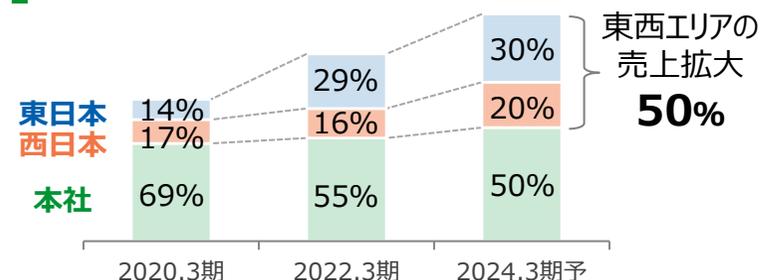


地産地消のリサイクル

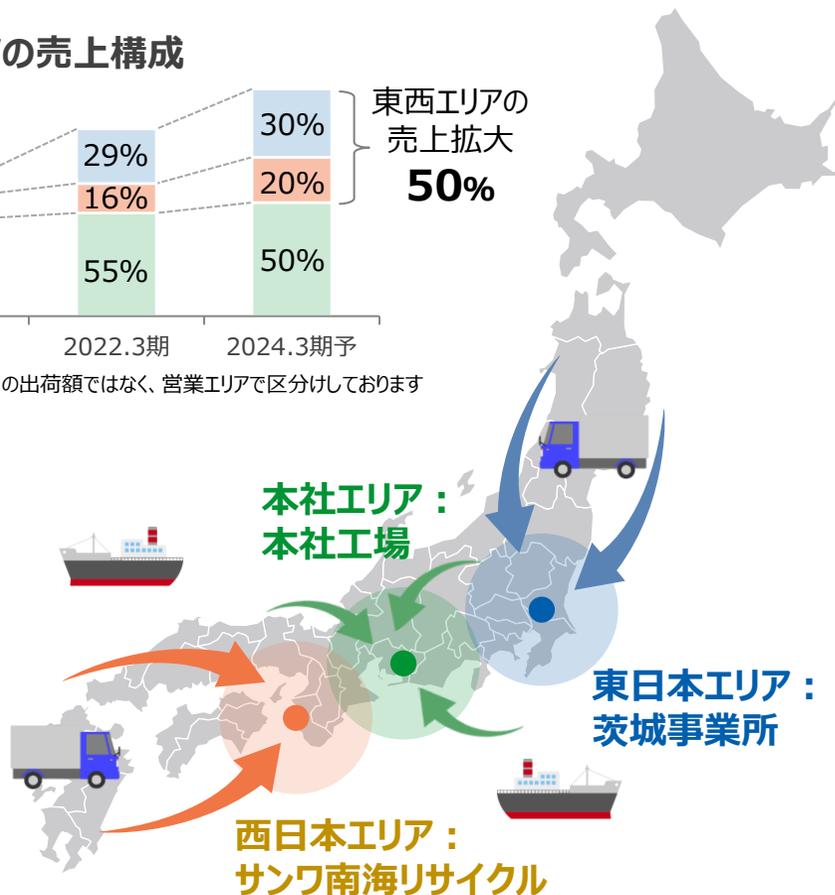


売上の拡大・収益性の向上

## 全国3エリアの売上構成



(注) エリア区分は工場別の出荷額ではなく、営業エリアで区分けしております



## 西日本エリア：SNRの本格稼働

リサイクルの対象を広げ、継続的に収益力を確保

- 汚泥、廃プラスチック類等の混練リサイクル

進捗状況 ▶ 23.3期下期から稼働開始予定 ⇒ 35頁

- 廃硫酸のリサイクル

進捗状況 ▶ 徐々に取扱数量増加

## 東日本エリア：茨城事業所の事業規模拡大

電池向け製品製造設備と廃棄物からの再生燃料製造設備まで拡充し、本社に次ぐ拠点として事業規模を拡大する

- リチウムイオン電池需要拡大への対応

進捗状況 ▶ 増設して能力UPを進める ⇒ 36頁

- 混合エマルジョン化設備の稼働開始、混練設備の稼働率向上

進捗状況 ▶ 徐々に取扱数量増加



# トピックス

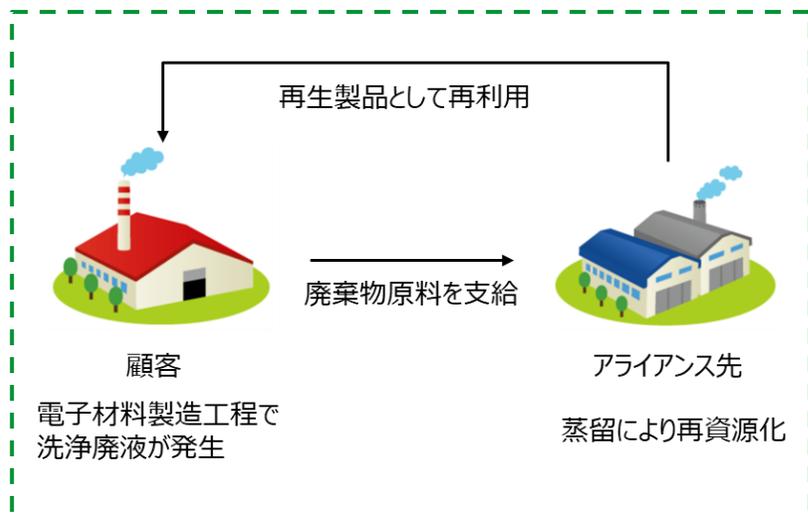




- アライアンス先の機能を活用したマテリアルリサイクルの加速
- 地産地消型の再資源化により、運送コスト低減、運送時のCO<sub>2</sub>排出抑制

## 電子材料の製造工程で使用された洗浄廃液を再資源化

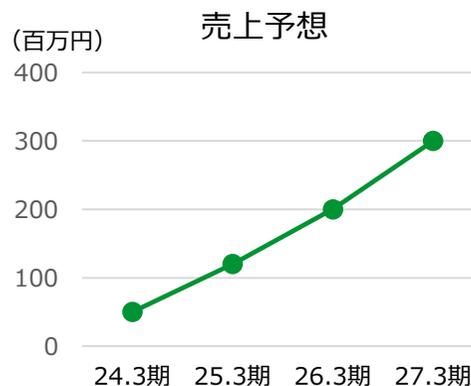
- 電子機器にはほぼ必ず使われる電子材料
- 日本企業の競争力、シェアが高い分野



アライアンス先で設備は完成

安全確認、手順整備  
水運転、試運転等を経て

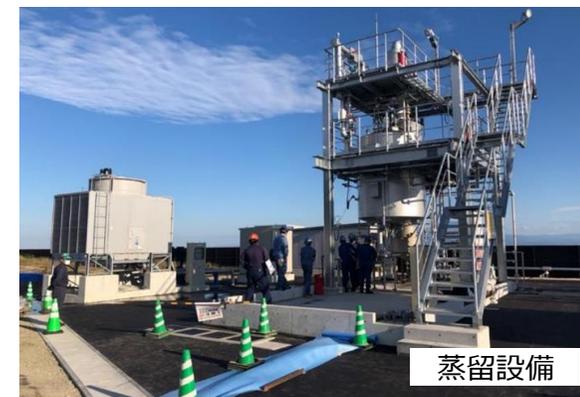
2024年3月期に稼働開始予定



アライアンス先工場



廃棄物原料 及び 製品用タンク



蒸留設備



当社グループによるトータルコーディネート

- 収集運搬
- 保管
- 分析
- 蒸留工程
- 品質保証
- など



# リサイクル事業の新設設備（下期より稼働予定）

- サンワ南海リサイクル株式会社（和歌山県）において、汚泥・廃プラ等を「混練」「不溶化」
- 固形の再生燃料やセメント副原料、路盤材等として再資源化
- **グループ全体の固形廃棄物キャパは1.5倍に拡大**

- 2022年6月 建屋の登記完了
- 2022年7月 竣工式典  
産廃許可取得（混練、不溶化）
- 2022年10月 廃棄物の初回引取予定
- 2022年11月 稼働開始予定



○許可取得により  
西日本の顧客開拓を加速させる

○「不溶化」は当社グループでは  
初めて取得した許可内容

※不溶化・・・廃棄物中に含まれる有害物質を  
溶出しないように安定化させる方法

## ●（西日本エリア／和歌山県）サンワ南海リサイクルで取得した産業廃棄物の許可範囲

中間処分方法	産業廃棄物の種類																施設の処理能力				
	産業廃棄物														特別管理産業廃棄物						
	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴミくず	金属くず	ガラス陶磁器くず	鉛さい	がれき類	ばいじん		燃え殻（有害）	汚泥（有害）	鉛さい（有害）	ばいじん（有害）
混練	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	115.2t/日
不溶化																	●	●	●	●	38.4t/日

【参考】（中部エリア／愛知県）サンワ境リサイクルで保有する類似の許可範囲

混練	●	●		●	●	●			●		●	●	●		●						144t/日
----	---	---	--	---	---	---	--	--	---	--	---	---	---	--	---	--	--	--	--	--	--------

【参考】（東日本エリア／茨城県）当社 茨城事業所で保有する類似の許可範囲

混練	●	●			●											●					57m <sup>3</sup> /日
----	---	---	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	---------------------

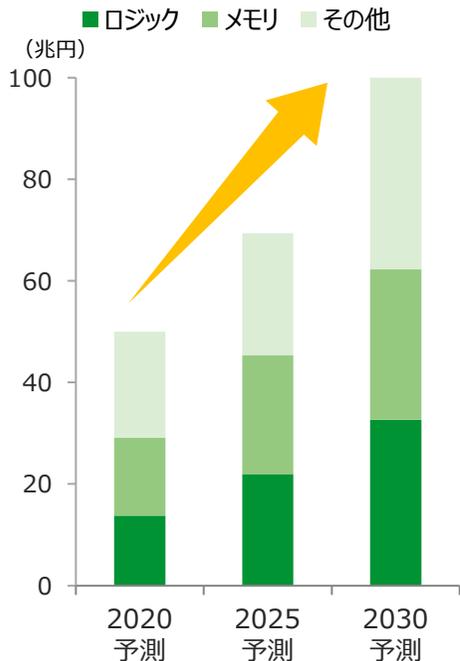


混練リサイクル場



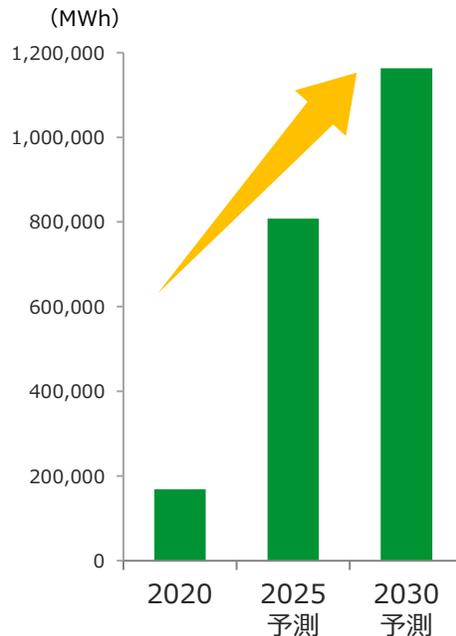
## ■ 半導体・電池をはじめとする電子材料業界への製品供給能力を強化

### 世界の半導体市場



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」  
※縦軸は出荷額を表す

### リチウムイオン二次電池の世界市場



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」

### 電子材料向け高純度溶剤の生産体制を強化

半導体・電池市場の需要拡大に迅速に対応、事業拡大を目指す

- 本社工場に高純度溶剤製造設備を増設
- 省エネ かつ CO<sub>2</sub>排出抑制型の設備
- 生産能力 (予定) 2,000t/年
- 2025年3月期に稼働開始予定



既存の高沸点溶剤精製装置に蒸留塔を1ライン増設

### 電池向け製品の生産体制を強化

電池市場の需要拡大を背景に、化学品事業の成長をさらに加速させる

- 茨城事業所に電池向け製品製造設備を増設
- 生産能力は既存の2倍以上へ拡大
- 2025年3月期に稼働開始予定

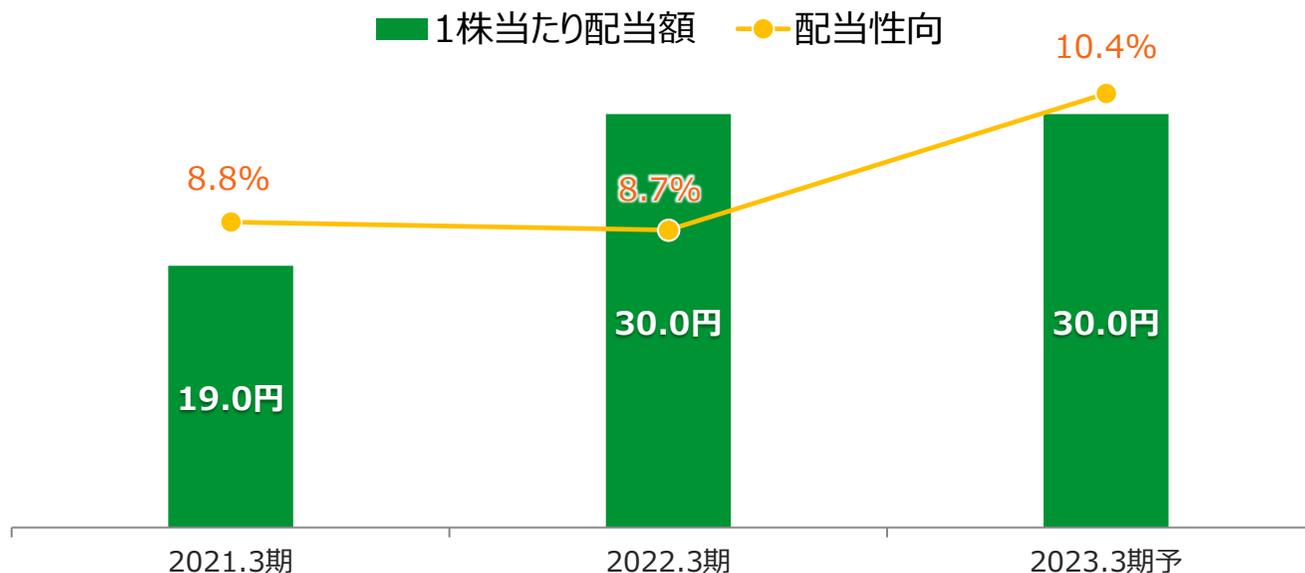
電池向け製品の  
売上数量・金額



## 配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、  
安定的な配当を継続して実施していきます

### 1株あたり配当金・配当性向



※2021年6月18日付にて普通株式1株につき20株の割合で株式分割を行っているため、2021.3期については、遡及して配当金額を修正しております

※2022.3期の1株あたり配当金30円につきましては、普通配当25円のほか記念配当5円を含んでおります。



# Appendix

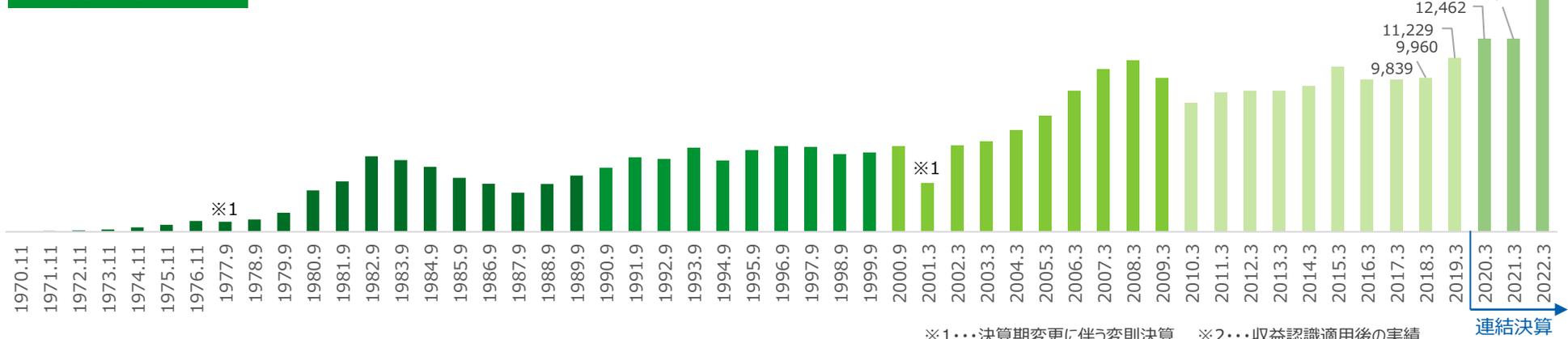


会社名	三和油化工業株式会社 (SANWAYUKA INDUSTRY CORPORATION)
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場、名古屋証券取引所 メイン市場 証券コード：4125
本社	愛知県刈谷市一里山町深田15番地
設立	1970年6月20日
資本金	1,588百万円 (2022年3月末時点)
売上高	連結：15,537百万円 (2022年3月期)
従業員数	連結：400名 (2022年3月末時点)
事業所	本社、茨城事業所、東京支店、大阪支店、北海道営業所、中四国営業所、九州営業所
事業内容	<p>リユース：産業廃棄物の高付加価値再資源化</p> <p>リサイクル：産業廃棄物の再資源化</p> <p>化学品：高純度溶剤、溶剤小分け販売、化学品受託製造</p> <p>自動車：潤滑油・加工油、洗浄剤、自動車副資材の製造・販売</p> <p>PCB：PCB廃棄物処理に関するトータルコーディネート</p>

- 製造業という基盤をベースに、環境ニーズに貢献するリユース・リサイクル事業を展開
- 分離・高純度化技術を高め、厳格な品質管理を求められる電子材料分野にも事業領域を拡大



売上高の推移 (百万円)



三和油化グループは、「**環境ニーズを創造する**」をテーマに事業活動を展開し  
**「環境負荷の低減」や「限りある資源の有効利用」**をはじめとする  
**ESG経営**に注力し**SDGsの実現**に貢献してまいります。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### 日本総研からセカンド・パーティー・オピニオンを取得

(SDGs IPOは国内3例目)

当社グループの事業内容及びIPOでの調達資金の  
 用途等が、SDGsに準拠しており、特に

- 目標12「つくる責任 つかう責任」
- 目標9 「産業と技術革新の基盤をつくろう」

が設定するターゲットへの貢献が期待できるとの評価  
 をいただいたものであります。

### 製造業（化学）の分類で上場承認

産業廃棄物を取り扱う企業は、通常、サービス業に  
 分類されます。

当社は、産業廃棄物を処理するのではなく、資源と  
 捉えて再資源化し、再生製品を市場に供給していく  
 「メーカーである」と自負しております。

今回、化学の分類で上場できたことで、当社の役割  
 を再認識するとともに、今後も社会的価値の創造に  
 努めてまいります。

三井住友銀行／日本総合研究所から  
「ESG/SDGs推進状況診断」において  
**評価A** を取得  
**評価A：良好なESG及びSDGs達成に向けた  
取り組みと情報開示を実施**

※上場前 2021年3月～4月にかけて診断した結果



## 健康経営 ～健康経営優良法人2022を取得しました～

社員のために「働きやすい職場環境」や「制度の改善」を実施することで、社員が健康で元気に明るく働ける職場づくりを行っています。このような取り組みに対して、一定の基準を満たしている企業を国が認定するための制度が健康経営優良法人制度です。

### 生活習慣病対策

#### 特定保健指導実施

受診率：91.2%  
苦い健康青汁を飲みながら受診することで健康意識を高めました

#### 健康食導入

産直野菜を使用した安心安全な食料で栄養不足解消を促進しました



### 稼働時間削減

**ノー残業デー・有休奨励日**  
毎週水曜をノー残業デー、祝日を有休奨励日としてワークライフバランスの充実に努めております

**残業事前申請制度**  
残業を事前承認制にすることで無駄な残業の低減や上司が部下の残業時間により関心を持つようになりました

### 女性活躍推進

**レディース定例会**  
女性の働き方改善と女性活躍のため女性社員にアンケートを実施し、職場改善を行っております

**育児休暇**  
育児取得率：100%（毎年）  
妊娠後は心身に負担がかからないよう配慮されます。  
妊娠▶出産▶育児▶復帰のサイクルを会社がサポートすると共に復帰したいと思える職場環境を整えております

**レディースDay**  
定期的に女性社員向けイベントを実施しております  
・第1回：ハイブリッド女子会  
・第2回：印象力アップ研修

#### 育児取得状況

	出産人数	育児人数
2021年度	7名	10名
2020年度	4名	8名

### メンタルヘルスケア

**出張個人面談実施**  
悩みのある社員への出張面談定期的に上長へのヒアリングを行うことで、何かあった時にすぐに話を聞ける体制を構築しました

**外部相談窓口設置**  
専門指導医による相談サービスの開始



セミナーの内容について(単位:人)  
■満足 ■やや満足 ■普通 ■やや不満 ■不満



### ストレスチェック

**ストレスチェック全社実施**  
希望者には産業医面談の勧奨を行い、自身のストレス状態の確認機会を設けております  
各種福利厚生や人事施策の充実、働きやすい職場づくりをすることをすることで数値の向上を目指します

**ストレスチェック集団分析**  
社員数増加に対して高ストレス者は年々減少傾向



### 感染症対策

パルスオキシメーター貸出  
出社時の体温管理  
抗原検査キット配布  
リモートワーク実施  
Web会議ツール拡充

### 健康教育

刈谷市役所主催こころの健康講座にてマフハラ防止法義務化に伴う教育を実施しました

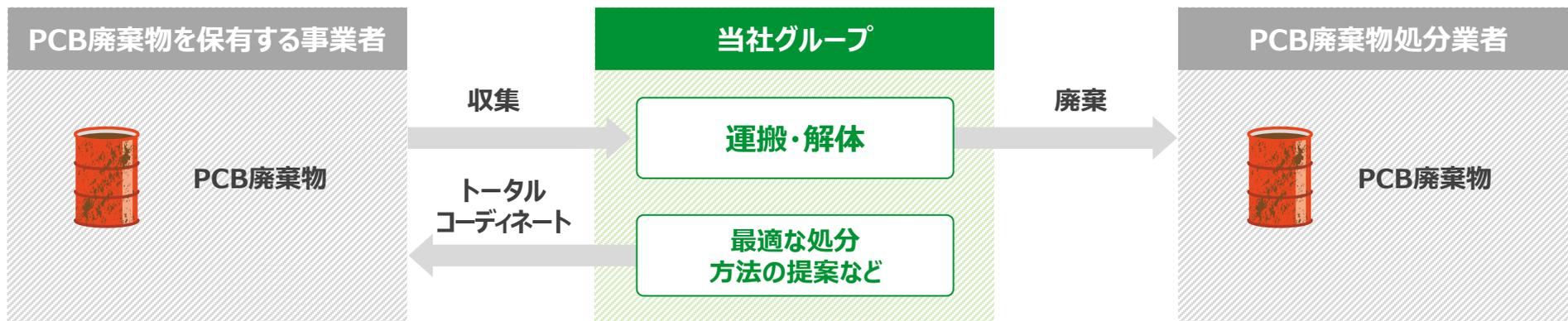




- 自動車事業は当社の祖業として、**自動車メーカーとの密な関係**を構築
- PCB事業は、**新規顧客開拓のエンジン**として貢献
- 自動車事業：潤滑油や金属加工油などの製造・販売



## ■ PCB事業：PCB※含有廃棄物の適正処理ソリューション



※PCB・・・ポリ塩化ビフェニルの略称。主に電気機器の絶縁油として使用されていたが、その毒性から国内での生産・輸入が禁止され、PCB特別措置法の制定により、確実かつ適正な処理を推進することとされている

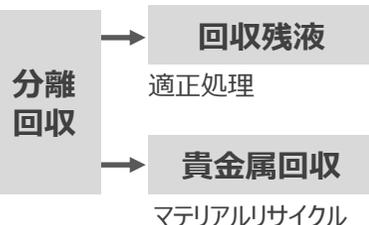
## ■ 自動車メーカーと連携し、次世代自動車のリサイクルを推進

### 1 燃料電池（FCスタック）

#### スタック製造工程廃液からの貴金属回収

- ・ 近郊での回収・減容化により、運搬によるCO<sub>2</sub>低減

電極製造時に発生する  
貴金属を含む廃液



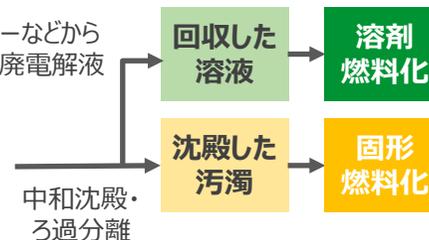
### 2 リチウムイオンバッテリー

#### 廃電解液の安全な処理と有効利用

- ・ 処理コストの低減、燃料として有効利用

#### 当社の廃電解液処理方法

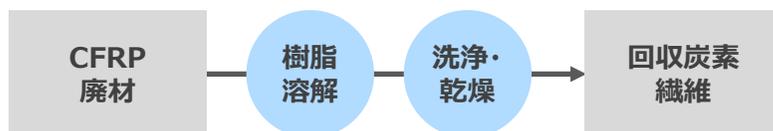
電池メーカーなどから  
搬出された廃電解液



### 3 水素タンク

#### CFRP（炭素繊維強化プラスチック）廃材からの炭素繊維の湿式回収

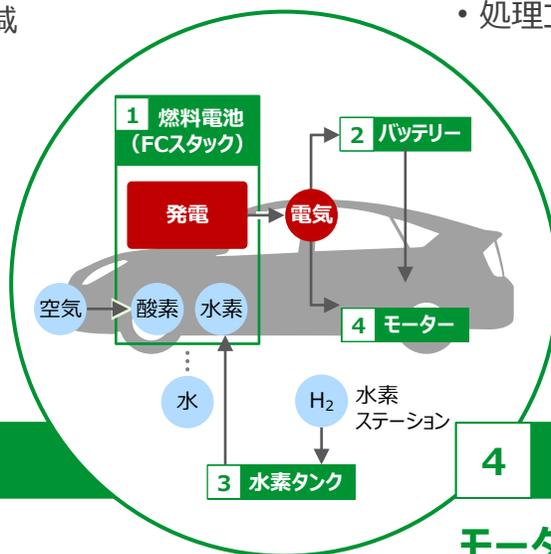
- ・ 非焼成の湿式回収により、低CO<sub>2</sub>なリサイクルを実施



### 4 モーター

#### モーター磁石からの希土類の回収

- ・ 希少資源を国内循環し、サステナブルな社会に貢献

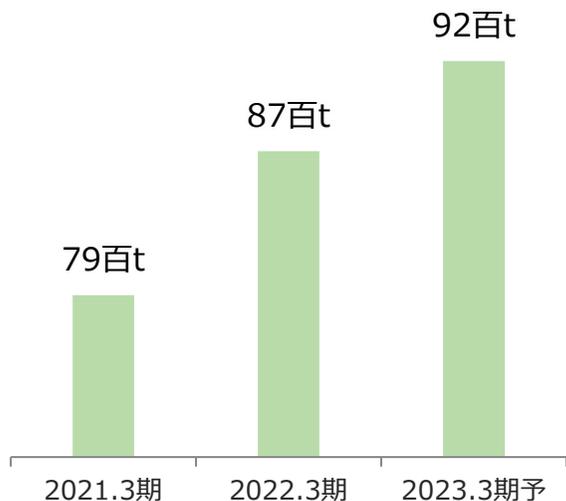




## リン酸製品の取扱数量拡大

調達難のため需要拡大傾向  
生産量を増やし国内資源循環に貢献

■ リン酸製品出荷の推移



## 蒸留精製設備の生産性向上

設備稼働率の向上のため生産性改善を継続  
特に、高沸点溶剤の販売を強化

■ 再生溶剤製品出荷の推移



※ 2022.3期は、スポット的に大量発生した低価格帯の溶剤廃液を再資源化したため、数量が大きくなっております

## 再生製品の付加価値向上

再生品の低環境負荷を数値化し、  
顧客のサステナブルな企業成長に貢献

例) 有機溶剤製造時のCO<sub>2</sub>排出量比較※  
(電子材料分野で多く使用される品目の場合)

再生品への切り替えで

**75%減**

7.81kg ⇒ 1.92kg-CO<sub>2</sub>



再生品利用の新しい価値の創出



**サステナブルグレード (SG)**

※ 新品 (出所:環境省) との比較  
再生品については当社実績値



## 東西拠点の顧客開拓、取扱数量増

東西拠点を中心とした新規顧客開拓による廃棄物収集の増加  
新規設備立上げによる処理力強化

### 【東日本】茨城事業所

- 溶剤リサイクル燃料化設備の本格稼働

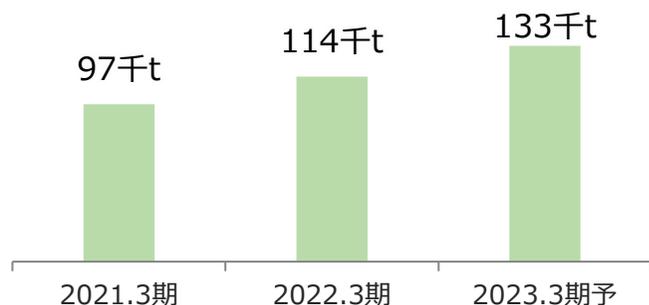
### 【西日本】サンワ南海リサイクル (SNR)

- 汚泥リサイクル設備立上げ (下期以降)



▲SNR汚泥リサイクル設備 (イメージ図)

### ■ リサイクル事業での廃棄物引取数量

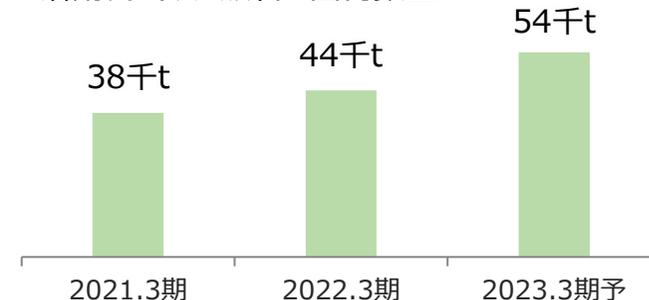


## リサイクル燃料事業の拡大

化石燃料使用削減ニーズの拡大に対応  
溶剤リサイクル燃料を中心とした生産増

### 茨城の本格稼働により、再生燃料販売

### ■ 溶剤リサイクル燃料の出荷数量



▲茨城の混合エマルジョン化設備



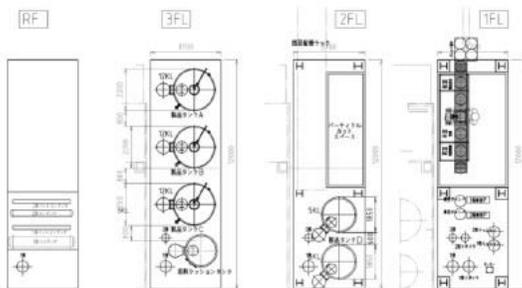
## 高純度溶剤の製造力・販売力強化

半導体・電池市場の需要拡大に迅速に対応、事業拡大を目指す

- 本社工場に **高純度溶剤製造設備**を増設

半導体材料向け高純度溶剤

2024年度までに増産体制を整える

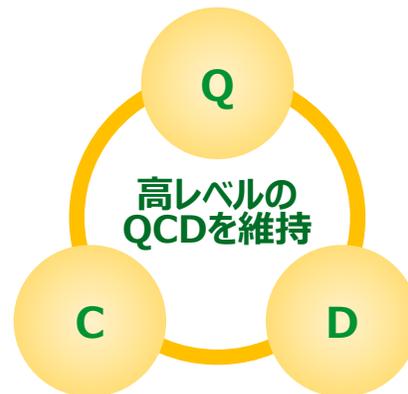


▲高沸建屋に4フロアで設計中

## 製造管理体制の強化

成長市場に対応すべく、より厳格化される要求品質に対応できる品質管理能力を確保

- メーカー体制の構築
  - 技術的サポート体制
  - 安全・品質リスクマネジメント
  - デリバリー体制



## 電池向け製品の生産量拡大

短期的には10～20%の生産性向上を図り  
長期的には追加設備投資を検討

- 電池向け製品の出荷推移



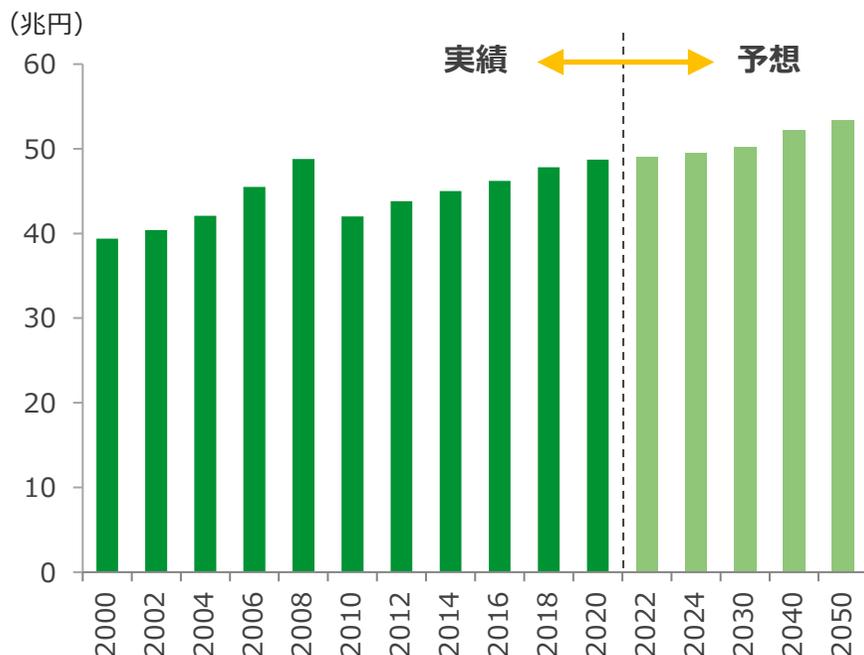
▲電池向け製品製造設備 (茨城)



- サステナビリティの潮流によって、リユース、リサイクルへの要求が高まり、中長期的に拡大するマーケット
- 液体廃棄物は再生利用率が低く、今後ニーズの高まりが想定される

## 産廃物処理・資源有効利用分野 国内市場規模

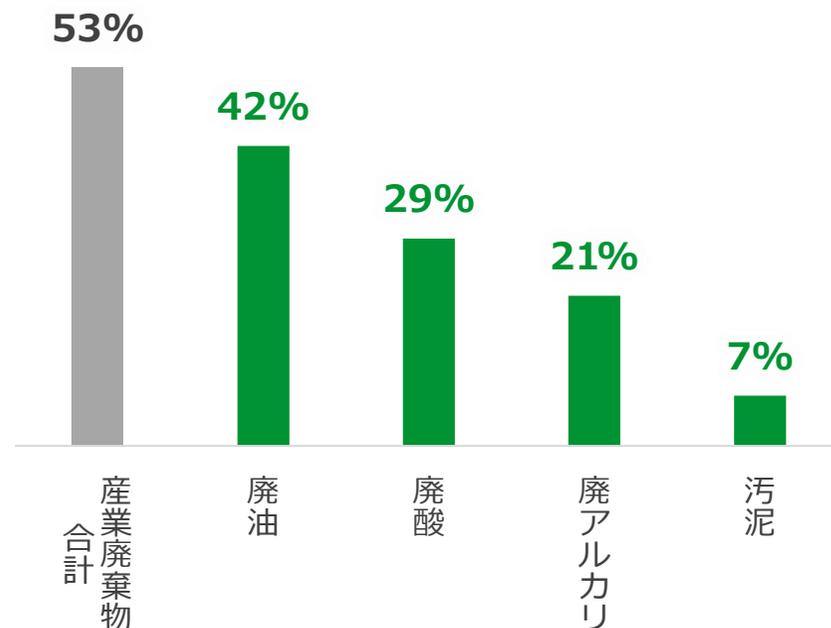
環境意識の高まりに伴い、国内市場規模は  
今後も堅調に推移する見通し



出典：環境省「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書（2020年3月）」

## 産業廃棄物の種類別 再生利用率比較

液体廃棄物の再生利用率は低いものの、当社取引先は  
環境意識の高い大企業が多く、リサイクルニーズは旺盛

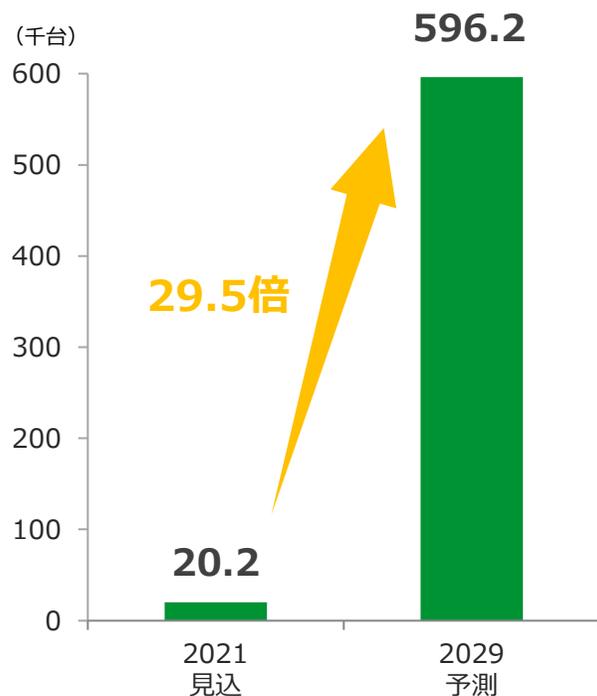


出典：環境省「令和2年度事業 産業廃棄物排出・処理状況調査報告書  
令和元年度速報値（概要版）」



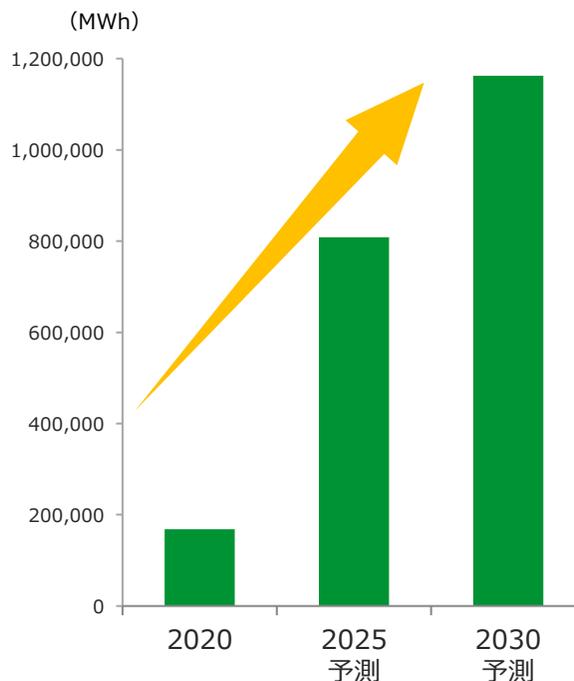
- 次世代自動車関連市場の今後の飛躍的な成長にともない、リサイクルの需要も拡大していくことが想定される

## 自動車用燃料電池 市場規模



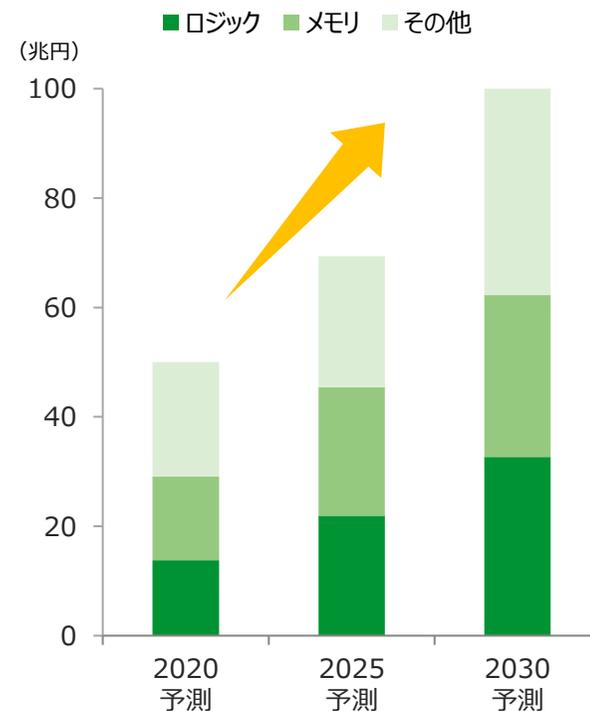
出典：株式会社グローバルインフォメーション「自動車用燃料電池の世界市場（～2028年）」

## リチウムイオン二次電池の 世界市場



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」

## 世界の半導体市場



出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」  
※縦軸は出荷額を表す

- 「環境ニーズを創造する」をテーマに事業活動を展開し、「環境負荷の低減」や「限りある資源の有効利用」をはじめとするESG経営に注力しSDGsの実現に貢献してまいります

成長/環境分野	Keyテーマ	具体的な取り組み（例）	SDGsシンボル
リサイクル資源循環	エネルギー	化石燃料の代替となる廃棄物由来エネルギーの提供	 
	硫酸の活用	酸を活用した省エネプロセスの開発	 
	希少資源の回収	レアメタル、レアアース、次世代素材の再資源化回収	 
	半導体、電池	電子材料分野でも再生製品を利用できる品質レベルの確立	 
脱炭素	CO <sub>2</sub> 吸収	カーボンニュートラルに貢献する技術・プロセス開発	 
半導体、電池	高純度溶媒	高純度化技術・品質管理体制の向上、省エネプロセスの開発	 
農業	食料、リン酸	今後も必要不可欠な農業・食の分野に事業を通じて関与	 

- 「環境」をテーマに事業展開している企業として、特に重点的に取り組んでまいります

## 2022年3月期の対応

### エネルギー使用量見える化

- 主要設備の電気、蒸気使用量を把握
- 改善ターゲットを絞る

### 輸送に係るCO<sub>2</sub>排出削減

- 船舶による大量輸送
- 車両の大型化、複荷輸送

### 脱炭素への取り組み

- 工場緑化の推進
- カーボンフリーLNGへの切り替え

当社グループのCO<sub>2</sub>総排出量  
**前期比 約10%削減** を達成

## さらなる環境貢献のための施策

将来に向けた目標、ロードマップ策定

再資源化・省エネ促進の研究開発

カーボンプライシングによる投資判断

クリーンエネルギーの積極的な使用

企業活動に対して経済的コスト以外に  
 CO<sub>2</sub>排出の意識を高め  
 時代を先導する環境リーディングカンパニーとしての  
 責務を果たせる体制づくりを推進

## 2022年3月期で実施できたこと

### 再資源化によるCO<sub>2</sub>メリット把握

- 一部の主要品目で、再資源化工程でのCO<sub>2</sub>排出量を数値化
- その品目について、新品材料のCO<sub>2</sub>排出量と比較検証

## これから実施していきたいこと

再資源化による  
 CO<sub>2</sub>削減量の開示

再資源化によるCO<sub>2</sub>削減取り組みを  
 第三者機関の認証獲得検討

**廃棄物から再生製品を製造することの優位性を  
 CO<sub>2</sub>削減の面からもPRしていきたい**

## 連結損益計算書

(百万円)

	2020.3期	2021.3期	2022.3期
売上高	12,462	12,460	15,537
売上原価	9,074	8,651	10,934
売上総利益	3,388	3,809	4,603
売上総利益率	27.2%	30.6%	29.6%
販売費及び一般管理費	2,440	2,748	2,973
営業利益	947	1,060	1,629
営業利益率	7.6%	8.5%	10.5%
経常利益	977	1,081	1,629
経常利益率	7.8%	8.7%	10.5%
税金等調整前当期純利益	918	1,141	1,841
親会社株主に帰属する当期純利益	624	727	1,259
当期純利益率	5.0%	5.8%	8.1%
1株当たり当期純利益(円) ※1	185.81円	216.27円	344.63円
ROE	14.1%	14.1%	16.4%

※1 2021年6月18日付で1:20の株式分割を行っております。

※2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準 第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

## 連結貸借対照表

(百万円)

	2020.3期	2021.3期	2022.3期
流動資産	4,666	4,972	8,177
固定資産	11,218	12,144	13,205
資産合計	15,885	17,116	21,382
流動負債	6,098	5,763	6,482
固定負債	5,057	5,724	5,130
負債合計	11,155	11,487	11,613
純資産	4,729	5,628	9,769
負債純資産合計	15,885	17,116	21,382
自己資本比率	29.7%	32.9%	45.7%

## 連結キャッシュ・フロー計算書

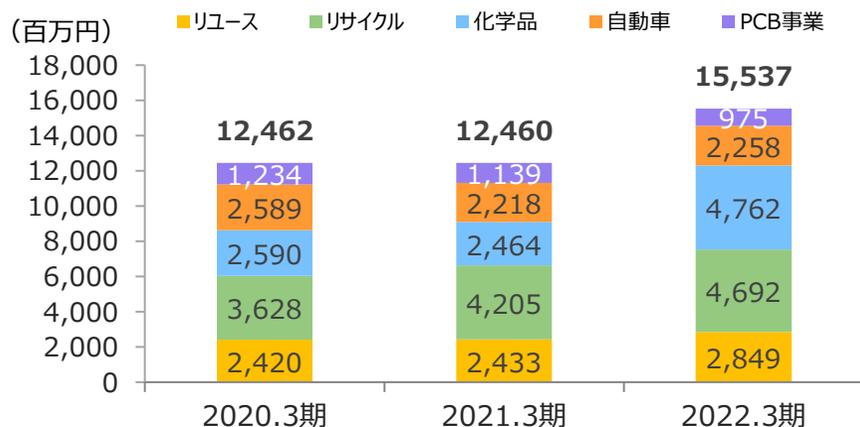
(百万円)

	2020.3期	2021.3期	2022.3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,315	1,772	1,272
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,513	△1,333	△1,844
財務活動によるキャッシュ・フロー	965	△164	2,291
現金及び現金同等物の期末残高	1,224	1,499	3,219

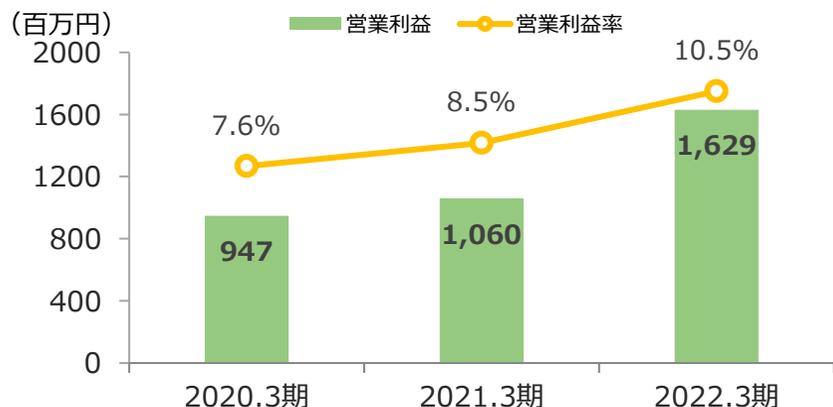
## ■ コロナによる環境の変化にも左右されない安定事業

### コロナ禍においても堅調な業績を維持

#### 売上高

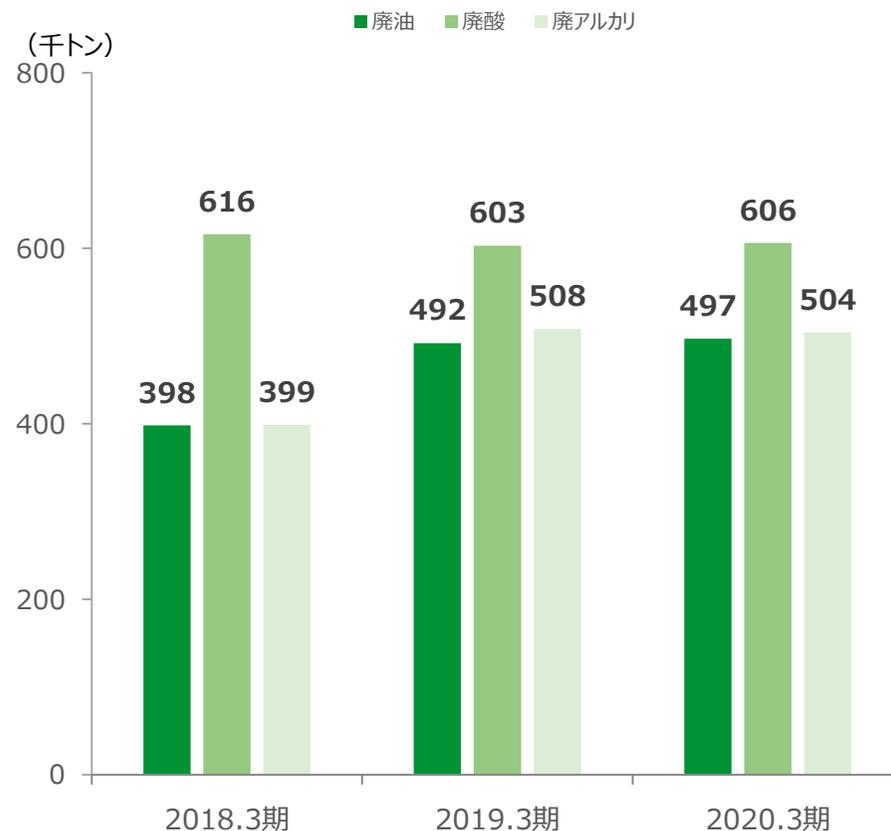


#### 営業利益



### コロナ禍でも変化のない環境

#### 産業廃棄物の排出量



出典：環境省「令和2年度事業 産業廃棄物排出・処理状況調査報告書 令和元年度速報値（概要版）」

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。